5．三角協力実施現況

5－1．隊員活動（活動現場の視察・見聞順。視察は、1995年12月20-21日。なお文中「PM」は、視察に同道し随時説明された藤田プロジェクト・マネジャーをさす。また「C／P」は、カウンターパート）

(1) 石川幸枝隊員（H6－3次・婦人子供服：95.4月～97.4月）

Kong Pisei（コンピセイ）サブセンターの教室を使って、毎週5日間、91名の生徒に4ヵ月の洋裁コースを指導中。前任者・中西加津隊員（家政）のカウンターパート1名に加え、その当時の生徒の中から優秀な1名をアシスタントに選んでいる。

前隊員と同様、志願者の選抜をせず、全員を受け入れて、1時間目（8：00－9：30）45名、2時間目（9：30－11：00）46名に分けた。

1月2日から、上級コースを開始の予定。20～30名を対象に午後2：00～4：30の時間帯を当てる計画。この教室の初級コース終了者を対象にするが、すでに両州から希望者が口こみ情報で照会してくる由。参加者の地区は近在に限らないが、毎日自転車か歩いて来ることになるので、そう遠い人は通えまい、とのことであった。

PMおよび同隊員によれば、コースに参加した生徒に、コースを終えた後に何をしたいかのアンケート調査をしたが、個人個人の希望が出ずに、皆同じように、職業につきたい／工場に行きたい／テーラーになりたい、という答えばかりだった由。（一般に〈個々人から意見・希望を聞き出すことは、KR支配時期の影響か、容易ではないようである。）

最近、プノンペンのある縫製工場に終了者20人が応募し11人が採用され仕事中である等、就職率は100%近くきわめて良好。

石川隊員によれば、C／Pもアシスタントも指導に慣れている由。視察時も、生徒たちが直接二人のもとに寄り集まって、指導を受けていた。ただし、生徒たちに手を取って教えるより、生徒を横に立たせて自分で作業をしてしまう傾向が強いという。

(2) 安達　薫隊員（H6－3次・陶磁器：95.4月～97.4月）

前任の小野原隊員は、コンピセイ・サブセンターよりかなり北のWat Prei Totungという寺院の隣接地に作業場を造り、相応の施設・設備を揃えていた。この区域が、かねて陶器の作業場が多く、陶土にも恵まれていたから。しかし、同隊員帰国後、この土地は、トラムクナーから相当の距離があり、しかも近くに同僚隊員／アセアン専門家の活動地もなく、女性隊員が単独で動くには不安が拭えず、いざという事態に対応できないと困る、との見地から、上記の前任地は、すでに撤去した。

したがって、安達隊員の作業場は、Kong Piseiサブセンターの一角に新設されてい

る。C／Pも前任者時代と変り、新たに1名が採用・配置されたが、50才台の彫金をやっていた男性で、陶磁器は初経験のため動きが鈍いようである。

生徒として4名の男子が通っていたが、1名が来なくなり、目下3名が蹴りロクロの回し方、仕上げ方を実習中であった。安達隊員によれば。とにかく当面この3人を大事に育てたい、とのこと。

同隊員は、作業場は、広さはあるが、一方に試験用のガス釜が設備されており、中央部から別の一方に、作業台やロクロ等が置かれてあって、この1棟ですべて行うのは具合が悪く、作業場と焼き場とは切り離して別に1棟を建ててほしい旨相談中、とのことであった。また、視察時の前にガス漏れがあり、視察時、C／Pはそれに関連する作業中であった。同隊員は、設備の点検に慎重・周到にならざるを得ないこと、かつ経験がないC／Pたちに任せず自分で臭いを確かめ念を入れないと心配であると、述べていた。

この後に各隊員の活動現場を回ったが、全部を見終ってみると、ここ安達隊員の状況が、一番困難を抱えているように思えた。それは、前任者との引継ぎができなかったことはさておき、作業場もC／Pもすべて新出発となったこと、による。同隊員には、焦る必要はなく、調査・試験を十分にして、方向を定めつつ具体的な計画案を立てること、やり直しが必要であれば改めて方向を見出して試行すること、等を示唆しておいた。

PMによれば、プロジェクトの事業予算とは別に、WID関連の予算が5百万円決まる方向にあり、そうなれば、大型の釜（のぼり釜）設備を予定している由。（注：5百万円の使途は、別に、ミシン40台、衛生トイレ50セット、教育用の謄写版、などを計画）

なお、試験的釜焼きに関し、隊員から1280度に高めるに8～10時間を要し、しかも作業場の電気が切れて不安、との話があり、別席でPMから、無理のない時間の組み立て方を工夫することが肝要、同隊員の知恵と力量を期待している、とのコメントがあった。

別に、同隊員に尋ねたところ、上薬について。この地域周辺では、コンテナー（容器）はポリ製のものが安く手に入り、ガラス製は見掛けない。灰、燃えかすを使っており、焼き物の表面は、灰色のものが多い。また、周辺の陶芸村では、野焼きがもっぱら。素焼きの村では赤土を使っており強度も分からない、との応答があった。

〈参考〉　石川、安達両隊員が活動しているコンピセイ・サブセンター内で、石川隊員の「婦人子供服教室」の一隅を利用して、前・伊良波真正隊員（美容師）のC／Pであった女性が、美容師の活動をしていた。彼女から直接話を聞かなかったが、藤田PMに後刻尋ねたところによれば次の通り。

隊員、専門家の後任者が派遣されなかった場合、そのカウンターパート（C／P）であった者は、原則として退職となるが、伊良波・前隊員のC／Pは、特例。本人の希望・計画・将来性に配慮して、後任隊員はいないが、当面の仕事が続けられるようにしている由。

ちなみに、C／Pは、それ以前から公務員であった者は、MRD／地域開発省（新設）に出向となり、同省のスタッフとして配置される。また公務員からでないC／P採用者は、MRDの職員として採用・配置される方式。退職とは、MRDから身分がなくなることになる。

(3) 沓澤賀子（くつわざわしげこ）隊員（7－1次・家畜飼育：95.7〜97.7）

Phnom Toch（プノントック）のHeeting Hutにおいて、この集落の責任者であり、派遣2年目のインドネシア畑作専門家・Mr. Alrisman Ageos（アリスマン氏／43才）と連携して活動している。

同氏は、インドネシア・チーム10名中4名を占める再赴任者の一人。農業普及員として大統領賞を授与されたほどの経営者（PMの話）であり、インドネシア・チーム（リーダーは、公衆衛生専門家のMr.H. Manan／59才）の「次席」、自称「テクニカル・リーダー」。Meeting Hut（注①を参照）においてintegrated project activitiesの意義を解説後、沓澤隊員ともども相互の連携プレーについて、現況を次のように説明した。――

この12月からRural credit（注②を参照）の一環として、農民にPiglet（仔豚貸与）を開始。飼育経験がある農家には、10ヵ月・10頭を貸与、その他農家のグループに対して3ヵ月・3頭づつを貸与。飼育農家には技術指導を行い、貸与期間を経て、成育した豚を販売した後、貸与されたのと同じ頭数の仔豚を返す仕組み。1頭10ドル前後の仔豚が、成育後は高く売れるので、差益が農家の収入になり、Revolving Fund式に、仔豚として回転してゆく貸与システム。――アリスマン氏によると、同氏はイスラム教徒であるから、豚飼育指導は沓澤隊員に依拠し、飼育に必要な飼料として、作物供給のための畑作指導を農家に行っている。同氏のC／Pは、この村に住み着き、Meeting Hutを“office”としても利用しつつ、随時農家の相談に乗っている由。

Meeting Hutには、この村の基本データ、Pigletの現況などを提示して誰にでも直ぐわかるようにしてある。基本データ中の村の人口数を見ると、村民934人（189家族）中、成人男性168人に対し成人女性297人（別に子供が男268人、女271人）と女性の割合が著しく高い。アリスマン氏に質し、同氏がC／Pにたずねたところ、寡婦の比率が高いとのこと。内戦、動乱等による死亡、行方不明、出稼ぎ、などが原因と思われる。

沓澤隊員の案内で裏手の農家の庭先に行くと、Pigletで貸与を受けた仔豚3頭が、

頑丈な柵の中で、動き回っていた。同隊員によると、別の農家に貸与した3頭のうち1頭が豚コレラに罹り（ワクチン注射後であれば、飼育者の責任になる）、その原因は犬の出入りや鶏小屋との交錯などにあると思われ、住家や他の家畜類との混在を避けるよう、柵の中で飼育することを指導している由。柵内で飼えば、餌の規則的な供給が必要になり、残飯や葉菜類などを確保せねばならず、畑作専門家との連携が大事になってくる。

〈注①〉Farmer's（Multipurpose）Meeting Hutについて：

藤田プロマネ（ＰＭ）の説明によると、これまで約20箇所に建て、村人の集まり・話し合いの場、隊員・専門家およびＣ／Ｐの活動拠点等、多目的・多方面に利用されている。

同ＰＭによる詳細は次の通り。

1．建築用の資材費は：US＄700-1,000（邦貨７～10万円）

　労賃：　　　1日・US＄1.5-2.0　（同150～200円）

ただし、労賃は、建築予定の村と直接関係がない人を雇用する場合に支払うもので、ほとんどは、村の住民参加でまかなっている。

2．建築期間：1週間。95年12月時点で、約20箇所とのこと。

3．村単位でFarmers groupが組織され、各責任分担が明らかになっておりMeeting hutは村の共通中心地点に設置するため、Farmers groupの主力メンバーが集まり、設置場所、期間、労働提供＝住民参加等を討議・決定する。

原則は、プロジェクトが資材を支弁し、村が労力を提供すること。利用する頻度が多ければ、結果として「割安」になるわけだから、何事につけても、村の諸問題について話し合える場所にするように、また、プロジェクト、政府、村の諸行事に活用し、関係・連携するNGOsや国際機関とのミーティングにも、多目的に利用する。

Meeting Hutは、これまでの各農家単位の考え方から、村全体の考え方へ、個人的な問題から村共通の問題へ、話し合い・討議・検討の場を提供し、村単位の生産性の可能性を高めるための、最小限必要な基盤整備であることを目的と考えている。

現にその活用によって、農家のグループ化、各分野の責任者の明確化、村内部のコミュニケーションが効率よくなり、隊員・専門家からの伝達・技術移転にも効果が期待され、村の中心・寄り合い場所になってきている。

〈注②〉Rural Creditについて：

Pigletが仔豚の貸与であるように、資材・機材を貸し出す現物貸与であるため、実態に合わせて、Partners Revolving Materialsに改称する考え（藤田ＰＭ）の由。

農家グループの形成により、投入資機材が最初の投入で、使用者が農家グループへ

返還させることが義務付けられ、村の経済状態によって、利息を付加し、その利息を、村の共通問題解決に当てる形ができつつある（同ＰＭ)、とのこと。

(4)　山上（やまがみ）かぐみ隊員（７－１次・保健婦：95.7～97.7）

Slay Cheyの集落で、衛生トイレの供給を行っている。

集落への細道は、ちょうど昼どきに当たり、学校帰りの子供たちが大勢下校中。その細道に面した農家の庭先に、衛生トイレ１式が置かれていた。同隊員は、この日の午後、設置先に運び込む作業を実行する予定であった。

このコミューン（行政区）には10の集落がある。山上隊員は、公衆衛生にかかる調査を実施中であるが、約千人の村民中、５才以下の子供が150～160人、少ない村でも70-80人いる由。かねて内戦が下火になり・停戦が実現し・難民が帰還して、ベビーブームを迎えている証左である。調査をまとめながら、一つの村に３つのトイレ供与・設置を、と計画している。トイレ１式（かんがい用の土管を転用、便器とその周囲を固定する資材等、トイレ設置に必要な資材一組。通称「トイレ・キット」）を、プノンペンを中心に調達して21～24ドルで供与するとのこと。

衛生トイレについては、翌日、上野恭子・シニア隊員（活動状況は後述）に、すでに設置されたものを見るため、保健ポストから村に案内してもらった。農家の裏手に設置されたばかり。すでに便器等をコンクリートで固め、土管を埋設済みであった。

同シニア隊員によると、「村にトイレを」の計画に沿って、担当地域内に、既設７ヵ所、12月中18ヵ所、１月には30～40ヵ所設置の計画、である。

トイレの新設に当たっては、５～８軒に１個設けたいという住民グループの希望をもとに、プロジェクトが、１式24ドルの「トイレ・キット」を供与する。設置場所について、住家、川や水源から離すなど基本的指導を行い、上屋、屋根、覆いなどは、住民側が施設する。これまでは、いわば「垂れ流し」状態で、９千人のコミューンに１軒だけという例があり、それも、昨年にプロジェクトが設けたもの、であるとのことであった。

(5)　丸野里美隊員（７－１次・小学校教諭：95.7～97.7）

Leay Bo Schoolの一教室内で、この周辺のクラスター校（近在のおおむね７～８校を１グループとして、こう呼称している）７校の先生・20名ほどが参集し、教材作成の手作業が行われていた。丸野隊員は、教壇で、先生たちを指導中であった。

クラスター学校は、いわば「学校群」であり、当日は、各校から２年生の担当の先生たちが集まり、厚紙を物差し・定規で切って、簡易な教材づくりの時間であった

丸野隊員によると、当初は、同様の教材づくりを、現行５年制の小学校の全学年の

先生を、1年生担任から順繰りに集めて、と思ったが、今は、1、2年生の先生に集中して教材作成を促すことにした。自分からは言い出さず、先生の中から従来使用してきた教材やアイデアを出してもらい、全員で話し合いを持つ。方向が定まると、その先生の学校に出掛けていって「打ち合わせ」をし、それにしたがってプノンペンに出向いて材料を買い揃え、ここに持ち込んで皆で作ってゆく、という方式。1週が、このような経過で費やされるので、全学年には手が回らない。先生に集まってもらうにも、交通手段がなく歩いて来る人もある。打ち合わせ等も、自分の方から出向いて行くことが多い由。——

当日の「クラス」では、数字を書き込んだ（算数の）教材を手掛けていた。

印象としていえば、教室内が暗い。窓が小さく開放的でなく、電気がないからでもある。先生には、年配者が結構いる。定規や物差しも、一つを何人も順繰りに使っている。概して静かで口数も少ないが、作業は熱心であるように見えた。

なお、同隊員は、学校・校庭で男の生徒たちがバレーボールに興じているが、女生徒にもぜひやらせたい。実行を促しているが、それにはボールの供給を考えなければ、と話していた。

(6) 上垣勇悟隊員（7－1次・稲作：95.7～97.7）

前・小田島成良・シニア隊員の後任として、同シニアが活動してきたSlah Kou／スラコウ普及所に引き続き活動の本拠を置いている。C／Pも同所の所長（54才の由）に変わりない。たまたま稲の収穫が終りの時期に入っており、これからの乾季対策に当たる。

折りから雲行きがあやしく雨が降出したため、また、端境期入りで農園には作物がない由であり、普及所のオフィスで話を聞いた。

上垣隊員によると、農民には、当然ながら小田島シニアの印象が強く、当面その活動実績に従いながら今後の計画を考えてゆく、という姿勢。当面の乾季の計画として、①肥料組合の計画づくり、②揚水ポンプ8台の貸し出し、がある。乾季の野菜用の灌漑が狙いである。

乾季の問題は水の確保にある。それがうまくゆけば、二期作／輪作は十分に可能といわれている。他に、種子の供給も問題。優良種子の確保・管理、ライスバンクの運営、在来の米と西瓜だけに頼るパターンから、野菜の栽培を中心に多種作の試験・普及を進めてゆくことが、農家の安定につながる。稲作隊員の役割は大きい。

この普及所では、かねてフィリピン・チームの輪作実験、果樹試験が続いている。今後とも、可能な限り相互の連携が望まれる。

小田島シニアが活動した前年は、大雨の後に干ばつで、全国的に米作が大きい打撃を受けた。藤田ＰＭによれば、4割もの収穫減るに踏ったとのことであったが、今年

の収穫は十分で、農民の表情は明るいようである。

同ＰＭは、米が豊作であれば、従来の米食だけにとらわれずに、例えば、煎餅の試作とか別の保存食を考案する等、食生活の改善も重要になると述べていた。

(7) 松浦香恵隊員（７－１次・小学校教諭：95.7～97.7）

「三角協力」現場視察・二日目の朝、トラムクナーの町から直ぐ裏手の広場に位置する Tram Khna School」に松浦隊員を訪ねた。

予定通りの午前８時半であったが、この日は、この地区のクラスター校７校の体育大会を、この学校の校庭で開くことになっていて、子供達が整列しているのが見える。聞けば、私たちの到着を待って開会するという計画とのこと。７時台からすでに１時間も待っていたらしい。

そのこと自体初耳であったが、待たせては申し訳ないので、さっそく校庭に出てみれば、「来賓」用に椅子・テーブルを並べ花瓶まで置いてあり、賓客である私たちの席だという。開会。校長の挨拶、District（郡）教育長の挨拶に続いて、挨拶の言葉を、と頼まれた。子供向けであるから短い易しい祝辞を簡潔に述べ、隣席の松浦隊員に、クメール語通訳をしてもらった。

国旗の掲揚に際し、子供達や参観の村人・父兄も直立不動で、厳粛な朝の〈行事〉に爽やかな感動を味わった。

松浦隊員は、とりあえず近在のこの学校で、教材の作成・整備やカリキュラムの改善等の協力活動を考えることになったようであるが（第１号報告書には、コンポンスプー州教育庁で「幼稚園教論」対象の講座（音楽、ゲーム、教材づくり）を週２回、とある）、まず学校の実情、先生・生徒の動き、教室・教材の状況をよく観察・理解するところから始めて、丸野隊員との意見交換なども経て、活動計画づくりをすることになろう。

経験もあり意欲的な隊員と思われ、徐々に実際的・有効な計画を立ててゆくことが期待される。

プロジェクトの協力で立てたこのトラムクナー校の新校舎は、教室の両側にガラス入りの窓を取り入れ、明るい感じがした。が、後刻、原口隊員（活動状況は後述）が説明したところでは、失敗作だという。ガラスが割れたり壊れたりした場合、修理（ガラスの購入）が簡単にできず、放置されることになるおそれがあるからだそうである。なるほどガラスはここの町では売っておらず、プノンペンで買えば高くつく。ガラスなしの窓の方が経済的であり成功作になる。

(8) 原口明久・短期緊急派遣（再赴任・教育：96.6.18〜96.3.31）
――同隊員作成の「校舎建設プロジェクト概要」参照。――

Thmor Sor小学校に同隊員を訪ねた。（同校の「紹介」は上記「概要」に）

本年度の計画は、①新設は16校；タケオ州9校がすでに完成、コンポンスプー州7校は2月に完成予定、②修理・増設が5校。

トゥモーソー校の教室に入ると、ごついコンクリートを心棒にして梁、屋根を組み立ててある。木材では10年経過すると痛んで屋根が持たず、建築方法を考え直したそうである。また木材は、製材して直ぐ使うと乾いて計測に狂いが生じ要注意、等々、これまでの校舎新設工事の経験から学んだ由。

また、建設に際しては、これも従来の経験・教訓に基づき、州の教育局に、校長、ＰＴＡ代表、テクニカルリーダーの3者が週1回参集し、州の総括者（General leader：局長）に、プロジェクト・マネジャー、テクニカル・アドバイザーを交えて、進行・問題等を相談、協議することにしたために、計画・実行が順調に進んだ、とのこと。

現場では、常時20人前後の村人が作業に従事したそうである。年配者も含めて十数人が校舎の前に集まっていたが、彼らが、この校舎の建設作業の担い手であった。

校舎はブロック造りで、窓は頑丈に出来ており、ガラスは一切使わない（前記のトラムクナー校と対比）が、内部が暗くならないように、窓の大きさを在来型よりかなり広げた。

校舎の外側にトイレを付設したのも、公衆衛生の観点から、トイレの使用法については指導が必要であるが、管理者側がトイレのドアに鍵を掛けてしまうので、それでは利用できないことになる、と注意をしている由。

なお、トイレの使用が、子供達を含めて村人にとって初めての経験であるとすれば、使用法指導は、例えば、紙芝居により絵解きをするなどして、清潔な利用・普及を進める要があるように思われた。

学校校舎建設プロジェクト概要

今年度、RD&RPではコンポンスプー州とタケオ州の両州に合計21校舎（タケオ12校舎、コムポンスプー9校舎）の新築校舎の建設 及 修理、増築を予定しており、うち9校舎は草の根無償援助の予算によって既に完成している。トイレ を併せた 一校舎あたりの予算は3教室ー9800ドル 4教室ー12000ドル である。

これらの学校の選択方法として

1 昨年度、野辺隊員の行った学校調査の資料をもとに選ばれている。

2 トラムクナーセンターに直接、学校校舎の建設を頼みに訪れた陳情団の中から実際の学校の状況はもとより、プロジェクトの基本概念（下記1、2、）を充たせる学校を危険地域を除いて選択。

3 カンボディアで活動しているNGO，その他の団体との兼ね合いから、両州の教育長の意見も参考にしている。

RD&RPでは、下記に上げる基本概念をもとに学校建設を進めている。

1 学校を建設するにあたりその作業をする人は、建設する学校の教員、学校に通って来る生徒の村の人々、又はその学校に隣接する寺の僧侶とし一般住民参加型の形をとっている。

2 1において作業する人、又はその他一切の人件費は払わないものとする。

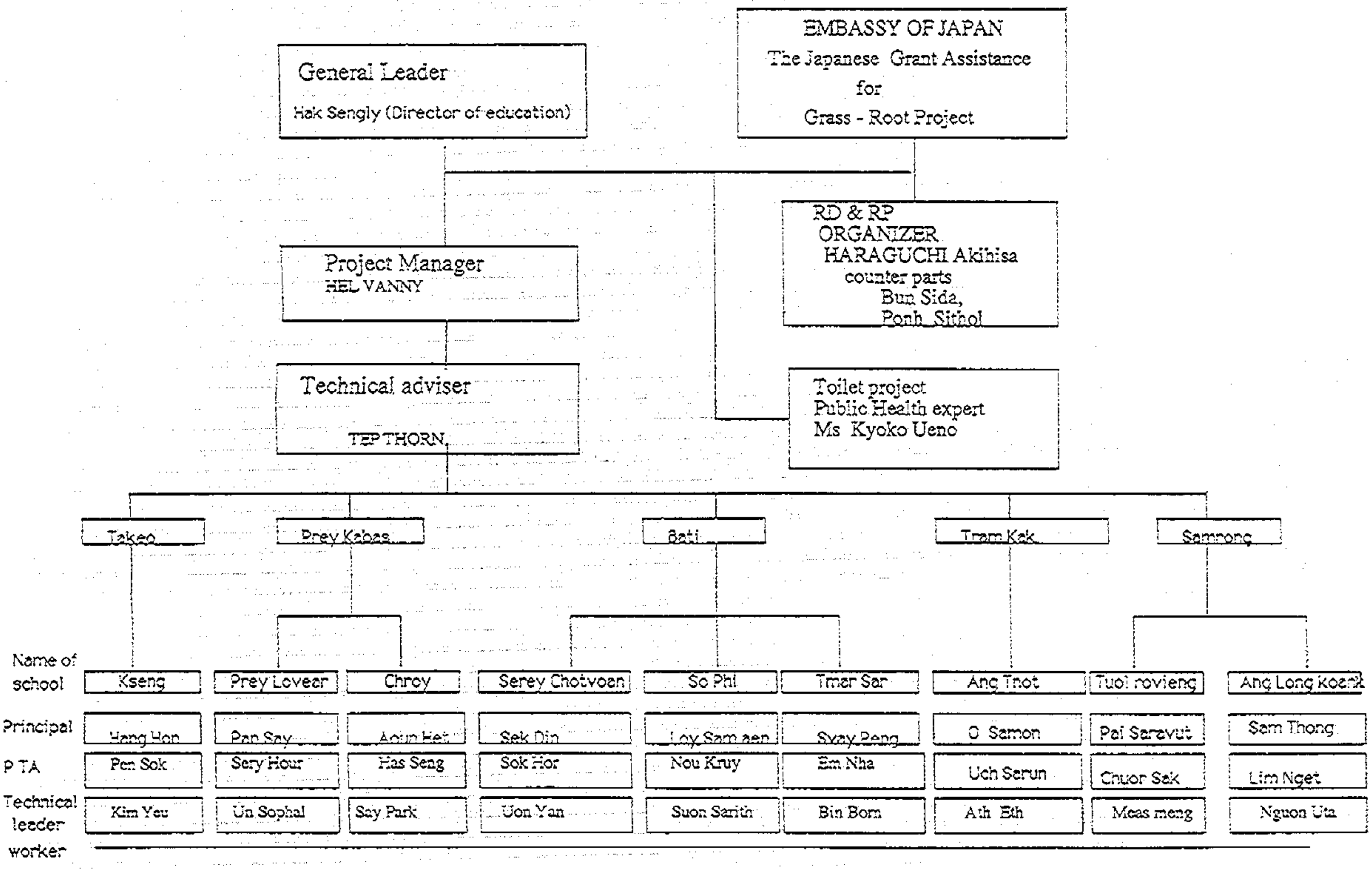
3 建築材料は全て現地で調達出来るもの、安価で手に入りやすい物を使用し、その受け渡しは全て現物によって行うものとする。

4 電動工具や特殊工具など村人が使った事のないものや、使用するにあたって燃料などのコストがかかるものは一切使わないものとする。

トゥモー ソー 小学校の紹介

トゥモー ソーは "白い石" の意味のとおり、あちこちに白い石が点在していて、今回の学校建設にもコスト削減のために使われている。
生徒数約450名、教員11名で、新しい校舎を建設する事によって生徒全員を収容する事が出来るが、この地域の学校に来ていない子供達を学校に呼ぶのにも一役買いそうである。
建築作業をしているのは村人と教員で、すでに一校建てた経験から技術的にも問題はない。

Organization of the Project for construction of Takeo province primary school



(9)上野恭子・シニア隊員（再赴任・保健衛生：95.6.18～97.6.17）

Komar Richia Health Post（保健ポスト）に同隊員を往訪。

ここは、同隊員の活動"基地"であるが、郡／Districtのスタッフである助産婦が2名、ヘルス・アシスタント（保健衛生助手）の3名が駐在している。

上野シニアは、当ポスト担当区域の13村の巡回（月1回前記スタッフ3名が巡回して、1才未満児に予防接種を実施している）、学校のトイレ設置指導、村への衛生トイレ設置指導等の活動を展開している。（村へのトイレ設置・普及、については、前掲）

村巡回は、衛生教育が目的である。カリキュラムを作成し、女性・母親を対象に実施するほか、下痢、テング熱などの病人に投薬も行う。保健ポスト自体は、ベッドは置いてあるものの、医療に関連する機械・器具や薬品類は皆無に近く、暗い教室があるに過ぎず、ここでの治療活動等は無理。したがってこのポストでは、助産婦が、村の産婆さん（TBA・コンミューン／区に10人）を集めて紙芝居による指導を行う程度、とのこと。

同シニアは、事業予算を活用してメーン道路からこの保健ポストまでのアクセス道路補修作業も行っている。粘土質のため雨季には道路がドロドロになって通行に難があり、石と赤土を入れて修理した。郡・区当局に村人の動員を申し入れたが、初日は、同シニアはじめスタッフが出勤して女性を主に作業したそうである。それを知って翌日には、コミューンから村人が集まって完成した由。

なお、ポストの庭の空き地を利用して、フィリピン・チームが野菜・果樹を植え付けている。同シニアによれば、インドネシア専門家や協力隊員等との、国別・分野別を越えた連携活動に刺激されて、野菜・果樹栽培と保健・衛生活動との共同・連携、integrated project activitiesの展開を望んでいる由。

なお、「三角協力」に派遣中の協力隊員10名のうち、桜井健隊員（H7－2次・農業機械：95.12月～97.12月）は、12月初旬にカンボディアに着任した後、プノンペンで同期隊員とともにクメール語の現地訓練実施中であった。トラククナー・センターに移動し業務を開始するのは、96年1月の予定であるので、この「隊員活動」には記載しない。

5－2．連携協力

(1) 隊員間で、あるいは隊員報告書中に、"integrate"が「合い言葉」になっているといわれる通り、分野間および派遣国チーム間の連携・共同活動が志向されている。前述・インドネシア畑作専門家・Alrisman氏と、協力隊の沓澤・家畜飼育隊員との連携は、その代表例である。

すでに前年のモニタリング期間中に、前記Alrisman氏が、インドネシア・チームのリーダー／公衆衛生専門家・Manan氏との間で、野菜食を増やすことが栄養改善にどうつながるかを調査したい、と述べたり、協力隊の小田島・稲作シニアが、タイの淡水養殖専門家との連携を企画したり、国・分野を越えて共同・連携を計る動きはあったものの、その時点で具体化は見られず、これからの課題とされていた。

２年目の半ばを過ぎた現在では、プロジェクト管理運営側・藤田ＰＭおよびカンボディアＭＲＤ（地域開発省）幹部の示唆や、各Monitering時点の相互討議等があって、プロジェクト内の連携協力は、始動し・進展しているように見える。

今回の出張調査では、一部のインドネシア専門家のほかは、各国のリーダー・専門家の活動を見聞し意見交換する機会がなかったが、しかし前記Alrisman氏の事例や、Manan氏が「Integratedprojectという考え方も活動も初体験であるが、その意義・効果は大きく、今後とも意識的にすすめてゆく」と述べていた（トラムクナーの宿舎で当調査団に）ことで、状況の一端がうかがい知れる。

(2) 前述・協力隊員およびインドネシア専門家間の連携協力の努力に刺激を受け、フィリピンの野菜・果樹栽培専門家チームが、協力隊員、特に公衆衛生分野との連携を考えたり、家畜飼育のインドネシア専門家（再派遣のImron氏）が、みずから畑作・野菜栽培の分野に活動を広げたり等々、integrated project志向の活動は、今後とも増進されるものと期待される。

しかしそれらは、自然に増勢をたどるものではなかろう。例えば、マレイシア・チームは、活動分野が、引き続き職業訓練部門に特化される。活動場所も、コンポンスプー・メインセンターが主で、他国チームの活動とは離れた位置にある。他国チームあるいは他分野との連携の動きは、今回の出張・調査の期間と範囲が限られていたにせよ、まったく見られなかった。前には、学校建設の原口隊員とともに、マレイシア・チームの大工、ブロック積みの専門家が、建築指導にたずさわった経緯があったが、今回は、それさえも聞かれなかった。

したがって、今後、連携協力の一層の進展を計るには、①プロジェクト運営幹部・ＰＭおよびＭＲＤ側の積極的な示唆・助言と、②協力隊員がアセアン専門家に対し、チームとしてであれ個別にも、それぞれの分野での協力活動に関連する連携協力・共

同活動を企画・提案することが必要であると思われる。

5－3．自立発展性・住民参加

(1)　「三角協力」実施による直接の受益者数は、年々10万人に上っている。各Monitering Report、およびJCC Meeting Minutesの記述を要約すると（ちなみに、藤田PMの「平成8年度以降業務計画案」－H8年1月31日付－参照）、次の通りである。
①初年度＝1994年度の2州における4分野（農業・教育・職業訓練・公衆衛生）の活動の受益者数：1995年3月時点－－ダイレクト100,087人、インダイレクト535,895人
②本年度＝1995年度の活動（Meeting Hut; Farmers Group組織；Rural Credit導入：Untegrated Projectの着手：公衆衛生トイレの供給、等）による受益者数：1995年9月時点－－ダイレクト100,409人、インダイレクト526,705人

(2)　地域開発の諸活動が今後とも成功裡に続き、自立発展してゆくには、専門家・隊員のカウンターパート（C／P。総数50名。いずれもMRDのスタッフとなっている）たちが、いかに村々に根を張って、村民・村民グループとともに地域発展に努めてゆくことが緊要と考えられる。

長年の内乱、有識者の虐殺によって、いわゆる篤農家が消滅し、村人の多くが恐怖と沈黙のうちに長年月を過ごさざるを得なかった経過、およびその後遺症は、特に農村地域開発にとって深刻である。それだけに、C／Pの役割は、一層重要と考えられる。

藤田PMによれば、C／Pを集めて月1回のミーティングを開き、毎月、業務進行状況の簡単なレポートを書かせて提出させており、問題点や要望事項について記すようにしているが、記入者はほとんど皆無に近い由である。何でもよいから書くようにさらに求めると、揃って同じことを書いてくるという。受け身一方で、自分で問題を考え意見を述べる習慣がない・そのような訓練を受けていない、もしくは、何かにおびえている状況、と考えられている。

C／Pのこのような状況を何としても早期に克服して、将来の地域発展にpromoterとして積極的な役割を演じてもらうことができるようにしなければならない。

(3)　プロジェクトとしても、将来の人材育成の一環として、例えば、各センターに配置されているPA（Project Assistant／カンボディア人スタッフ。将来はセンターの管理者となる計画）に、通常の業務以外に、センターで出来る事業を考案・実行できるよう督励する等、様々な考慮を払っているが、やはり主対象は、C／Pでなければなるまい。

藤田ＰＭの意見を取り込んでいえば、今後、①Ｃ／Ｐミーティングでは、あえて発言者を決め皆で話し合ってみる等、徐々に自分で考え・意見・希望をもち・述べる習慣をつける必要、さらに進んで、②Ｃ／Ｐを主対象に、将来の地域開発活動業務の担当者を育成できるようなコース解説を、プロジェクトが考案・実施する必要、が感じられる。

上述の習慣・訓練を経ながら、3年目に予定されるであろうプロジェクト評価に当たっては、その中心に、「Ｃ／Ｐの力量」「技術移転の進捗度」等、Ｃ／Ｐの評価を置いて、Ｃ／Ｐ指導・支援の強化を一層具体化する必要があるように思われる。

関連していえば、地域の自立発展を促す方向で、Farmers (Mulyipurpose) Meeting Hutの設置とその活用は、大きい意味があると考えられる。その趣旨、設置の段取り、効果等は、詳細を前述した通りであり、その活用が、農民のグループ化促進とその機能化に連動してゆけば、Ｃ／Ｐの役割は高まり、農民参加型の開発が前進することが期待される。

6．アセアン諸国専門家の意見

本プロジェクトは、日本とインドネシア、マレイシア、フィリピン、タイのアセアン関係国がカンボディアに対し共同で技術協力を行うものであり、通称「三角協力」と呼ばれている。

日本の提案で始められたこのプロジェクトは、前述の通り日本とアセアンとの共同協力であり、アセアン各国の協力無しには成り立たない。また、南々協力としての性格も持ち、アセアン専門家の活動はプロジェクトの成果に非常に重要な意味を持つ。アセアン各国とカンボディアはその地理的な条件や、気候、技術レベルの点で類似する点が多く、カンボディアの様々な条件に見合った、まさに適正技術の移転が可能であり、大きい成果が期待できる。

調査団派遣時に、協力隊員はシニア隊員2名を含め、9名の隊員が派遣されており、専門家はアセアン各国から、タイの6名、その他の3カ国は各10名、合計44名が派遣されていた。この44名がトラムクナーの宿泊施設で共同生活をしているが、治安上の問題から同センターはフェンスで取り囲まれており、24時間体制で警備員が巡回している。夜間の外出は著しく制限されている。また、プロジェクトが単年度で実施されていることにより派遣形態も1年契約であり、年度毎に契約手続きを行ったり、本国にとんぼ返りをして、再度カンボディアに赴任しなければならない。そのうえ、センターでは、当然のことではあるが1人に1部屋しかなく、専門家は単身赴任をしている。アセアンからの派遣者は専門家としての地位を与えられているが、その意味では、その地位や位置づけ、活動の重要性に反して決して恵まれた生活環境に置かれているわけではない。

かかる状況のもと、アセアン専門家の考え方、意見を汲み上げることは今後の協力体制に大きい影響を与えるものであり、重要である。本調査では、日程の都合からフィリピン専門家と話す機会はなかったものの、タイはリーダーから、インドネシアはリーダーを含め全員から、マレイシアは5人の専門家から意見を聞くことができた。以下はその概要をである。

タイのリーダーの考え；

タイは農業、公衆衛生、生計向上を主とした活動を展開している。その中でも、特に農業分野をメインに据えているが、同分野では1年間で成果を出すことは困難であり、また計画立案も無理なものにならざるを得ない。

また、専門家の中には再派遣の者と、新規派遣の者がおり、いずれにしても再派遣者は年度毎に本国に帰国し、複雑かつ時間を要する派遣手続きをしなければならず、その期間は現場が空白となる。新規派遣者はリクルートに時間がかかり、プロジェク

トの開始時期に間に合わず、実質的活動期間が非常に短くなるため、十分な活動が行えない。

このような問題は1年間の協力期間と単年度の実施に起因するものであり、活動内容をより充実させ、成果を確実に高めてゆくためには、5年程度のまとまった期間で協力を実施すべきである。協力期間が長くなれば、リクルートも容易になり、現状以上に積極的参加ができる。

インドネシアのリーダー、専門家の意見；

インドネシアはチームとして、このプロジェクトに参加できることを誇りに思っている。協力期間が1年間毎であっても、専門家を派遣する体制は整っており、かつ本国および在カ国インドネシア大使館が全面的に協力をしてくれる。今後も、本プロジェクトに参加し、カンボディアを支援していきたい。協力期間が長くなるのであれば、今以上の成果を上げることも可能となるため、日本側でより良い体制造りをしてもらいたい。

マレイシアの専門家の意見；

本プロジェクトに参加できることは意義があるが、生活環境等に問題が多いので、何らかの解決を望む。また、1年間の協力期間と単年度の実施では活動を行う上ですべてが中途半端になってしまうので、複数年での協力形態を検討してもらいたい。あわせて、専門家としての処遇等についても今以上の改善を考えてもらいたい。

これら、専門家の意見を総括すると、プロジェクトへの積極的な参加、活動を行っている当事者として、現在の単年度による協力形態では、活動内容やリクルート等の専門家派遣そのものに支障があり、換言すれば、協力を行う上で最も重要な部分に影響がある、という考え方が読みとれる。同時に協力期間の改善を強く希望していることも明らかになったといえる。日本側としては、プロジェクトの本格的な活動開始後、3年目にもなり、問題解決のために、関係機関が早急に対応策を検討する必要があると思われる。

7．問題点および提言・要望

カンボディアにおける協力活動の、当面する問題点および課題をまず大づかみに上げておく。

▽「三角協力」については、(96年度の1年延長を前提とし、通算3年の協力期間の後) 97年度以降をどうするかが最大の検討課題である。選択肢は幾つかあり、それぞれに問題点等が考えられ、それらについて述べ、提言・要望を記す。

▽また、プノンペンにおける協力活動には、「三角協力」とは異なる問題点なり課題なりがあり、それらを合わせて記述して提言・要望を記す。

▽協力活動全体に共通する問題として治安状況がある。今後のカンボディアへの協力にどう取り組むかは治安状況の推移に関わるところが大きく、治安問題を共通事項として述べ、提言・要望を記すこととする。

1．「三角協力」の97年度以降について：

(1) 通算3年を経過し、協力事業の4年目以降をどうするか。

まず、それを協議するための評価の実施と、その時期について。

当プロジェクトは、第1年目からモニタリング活動を継続実施し、95年末までに6回のJoint Consultation Committeeを開き、モニタリング結果を検討・評価して、次の行動計画へと着実に事業の進展と拡充を計ってきている。当初派遣された協力隊員・専門家の半数以上が2年目も再派遣され、「実施状況」「アセアン諸国の意見」等に詳述した通り、協力効果は相当に高まり、「関係期間との協議結果」に見る通り、内外の評価はきわめて高い。

このような経過で3年目に入ることが確実視されているプロジェクトが、その3年目の96年4月以降どう展開・発展するかが、3年経過後の方向を決めることになると考えられる。

そのためには、3年目の適当な時期＝3年目の終了時点より少なくとも半年以上前の時期、つまり96年9月までを目途に、数次にわたるモニタリングの経験と実績の上に立って、プロジェクトの総合的な評価を実施し、それをもとに、継続の当・否・継続であれば、どのような継続方法を取るかの協議を関係者間で進め、97年の早い時期に、将来方向を決定することが求められる。

(2) 評価の実施に際して。

プロジェクト評価の実施にあたっては、前述・モニタリングの経験と実績が重視されるべきであるが、特に、協力継続の当否に関わると思われるカンボディア側カウン

ターパートの活動実績、技術移転の進捗度（技術の現地化・住民への定着度を含む）を主に、個々のカウンターパートについての評価を行う必要があろう。

可能であれば、カウンターパートの意識調査、住民の意義・要望調査を計画し実施する意義があると考えられる。受動的な姿勢が著しいといわれる彼らにとって、そのような機会はほとんどなかったと思われ、自立自助を促す上で重要なステップになると考えるからである。

(3) 現時点での、プロジェクト継続の当否。

プロジェクトの継続の当否は、上述・評価実施と、それを踏まえての論議によることではあるが、現時点に立ってプロジェクトを概観すれば、通算3年の後、継続なし・事実上終了、とすることは、次の理由から適当とは言い得ない。

①通常の技術協力プロジェクトでさえ、特例以外は、協力期間5年を通例としている。本件は、農村開発プロジェクト、かつ農業と諸分野との連携が進展中であり、農期（雨期・乾期）の関係で、5年にも満たない数年間では、経験の蓄積が十分でない。

②本プロジェクトは、カ国の国内情勢、専門家派遣の手続き等のやむを得ない事情で、活動開始が当初予定より大幅に遅れた。さらに、単年度の措置のために、アセアン専門家の選定、本国との往復に時間が取られ、一部に未派遣の事態が起き、あるいは活動の中断が生じている。形の上では3年間の協力に違いないが、実質的な活動期間は、3年にはかなり及ばない。

③本県実施の基本条件ともいうべきカンボディア側の実施体制、および治安状況が、ようやく整い始めた時点であり、農村総合開発にとって、これからが正念場と考えられる。その中にあって、Meeting Hut, Rural Credit等、農村開発の諸機能が動き始めたところといってよく、その維持・発展に必要な資金の手当および機材・資材の調達は、しばらくはカ国外からの支援によらざるを得ないのではないかと思われる。

(4) プロジェクトの継続方法について。

したがって、次の意見は、97年度以降、本プロジェクトを継続し発展させる方向について述べるものである。

選択肢として、①「プロ技」方式、②その他のJICA方式、③JICE活用の方式、④従来の方式の延長、等が上げられている。以下、その順序で意見を記し、⑤新方式の探求、をもって提言・要望とする。

①「プロ技」方式。

既存のプロジェクト技術協力の方式は、本件のように、活動分野が、農業、保健衛

生、教育、生計向上の広範囲にわたり、しかもそれぞれが連携・統合して進行する協力事業にはとうてい馴染まない。

しかも形成・進展の経過は、JICAの部局では、企画部、派遣事業部、協力隊事務局の3部主体が明白で、プロ技各部は従来ほとんど関わりを持っていない。

便宜的に、現行の「プロ技」方式を取ること（即・特定の部が担当すること、共管を含む）は、現実的でないのみか、適当とは言い得ない。例えば、関係省庁との関係、専門家の選定、予算管理、等に関し、いずれも無理・支障が考えられ、「プロ技」方式は、採るべき方法とは言いがたい。

②その他のJICA方式

現行のJICA専門家派遣は、「個別専門家」として派遣事業部が担当している。しかし、アセアン専門家の派遣や道路補修等インフラ整備を含む事業予算の管理・運営、並びに協力隊員の派遣をも合わせて、同部を主管とするには、相当の無理・支障が考えられる。

そうかといって企画部は、企画・調整を機能としており、進行中のプロジェクト事業を主管し、事業予算を管理・運営することにはまったく馴染まない。

JICAのどの部局であれ、それぞれの機能、所掌事務が規定され、その論理にしたがって業務運営を行っているわけであるから、本件のように、様々な協力活動形態があり、アセアン各国との強調があり、柔軟な予算運営を求められるプロジェクトを、既存の組織・規定をもって取り仕切ること自体に、無理と支障があるといわざるを得ない。

③JICE活用の方式

本件は、事業の趣旨・目的上、（現在は）JICEとUNOPSとの1年契約に基づいて実施に至っている。単年度予算という性格は別として、この契約方式には、折衝関係者さえ困難視し、現行の1年ごと更新、には、カ国側、アセアン関係者いずれも、「関係機関との協議結果」「アセアン諸国の意見」に見る通り、不便と支障が大きく改善を強く要望している。現行方式を4年後もそのまま踏襲・継続することには、かなりの抵抗と不満を覚悟しなければならず、事業実施の効果にも影響を与えかねないのではないかと懸念される。

しかしながら、JICEがこれまで果たしている役割と経験は、相応に尊重してしかるべきであり、JICEを活用することと現行の契約方式とは、必ずしも同一視することはなく、契約の方法を改変できれば、それは一つの解決策であろうと思われる。

また、現行方式がJICA-JICEの“2頭だて”という懸念なり批判なりがある。それぞれが権限を主張し、事業運営に支障を来すことがないか、という点である。現地サ

イドでは、これまで、そのような事態は皆無であったと双方から聞いており、相互に連絡・協議を密に・適正に行うならば、このような批判・懸念を杞憂に終わらせることは十分に可能であるように思われる。

④従来の方式の延長

適当な実施方式が容易に決定できない場合に、万やむをえず現行方式を取らざるを得ないにしても、それは一定時期に限る、決定時期を予定して検討・合意を急ぐ等、臨時の措置とすることが望ましい。

⑤新方式の探求——提言・要望・その1

ⅰ）上述の通り、「プロ技」方式を採らず、既存のJICA方式でなく、JICE活用も視野に入れて、新しいプロジェクト実施の方式を、この際探求すべきである。
本件もその一代表例であるが、今後「南南協力」の一層の進展が期待され、かつそれへの支援がわが国の開発援助の重要な一方向であれば、新しい観点から新しい方式を考案することが必要ではないかと考える。
また、環境、WID、貧困等をテーマとするプロジェクト協力の形成・拡充に際して、特定の分野に限られず、例えば農林・畜水産業と職業訓練であるとか、保健医療分野に経済、社会の分析・調査等、いわば学際的に、多様な分野・職種が共同し連携して協力活動を展開する事例も、またその必要性も、増加してくると考えられる。

ⅱ）このような時代の動き・変化に即応してゆくには、既存の「タテ割り」組織では、有効な計画・実行ができにくいはずである。特定の組織にとらわれず、かつ実施に責任をもって、しかも柔軟に対応できるようにするにはどのような形態が適当か、新しいプロジェクト実施体制を検討することが急務と考えるゆえんである。
本件は、JICAが中心になって実施する事業であることには変わりないのであるから、とりあえずは、JICA本部内に、関係各部局から成る・例えば「三角協力実施本部」を設け、現地のプロジェクト事務所との連絡を確立し、企画部の企画・調整機能を生かしつつ関係各課の分担と連携による有機的・横断的な体制をつくることが望まれる。

ⅲ）（本件について）特に要望することは、可能な範囲でではあるが、現地プロジェクト事務所・責任者に、事業資金の運営・管理の権限を相当に与えること（上記・プロジェクト事務所との連絡の確立）、既存のJICAプロジェクト運営・管理の観念は捨てて、必要とする諸文書・手続き等があれば、まったく新たな支店から考案すること、である。

(5) 協力の継続期間－－提言・要望・その2

4年目以降の協力を検討する場合、実施方式とともに、当然のことながら、協力継続期間が重要な検討事項になるはずである。

これも、予定されるべき評価とそれに基づく協議によって決められるものではあるが、現時点に立っていえば、向こう3年間、とするのが適当ではないかと考えられる。

その理由は、次の通りである。

①本件のような農村開発プロジェクトは、短期間では相応の効果を上げ得ないであろうこと；

②94年度から毎年更新ながら（すでに）3年の協力が行われること（前述のように実質的に3年に及ばないにせよ）；

③3年は、プロジェクトに相応の評価と区分を行い得る適当な期間と見られること；

④逆に、3年を経過すれば、実績・評価の上に立って、次の対応を決めるべき時期になるであろうこと。

８．収集資料および関連資料

プロジェクト概要

派遣計画・実績

活動実績

プロジェクト作成パンフレット

治安情報

Ⅱ．プロジェクト概要①

カンボディア難民再定住・農村開発プロジェクトの概要

1995.10.1

1．目的

1992年3月30日始まった国境からの難民帰還は、1993年5月の総選挙までに総数37万人に達したが、総選挙後のカンボディアにとって、この帰還難民、国内避難民及び除隊兵士の再定住を促進させ、安定した生計を確立させることが最大の課題となっている。この問題を解決するためには、国内最大の産業であって、人口の8割が従事している農業を中心に基盤整備を行うことが不可欠であり、本プロジェクトは、かかる観点にたって、コンポンスプー県及びタケオ県周辺における農村基盤整備・農村地域開発を行ない、帰還農民等の生計向上を実現しようとするものである。

2．対象地域

カンボディア国　コンポンスプー県　コンポンスプー周辺地域／タケオ県北部3号線周辺地域

プロジェクト対象地域位置図　：　別紙参照

3．計画内容

ＵＮＨＣＲに日本が帰還難民の再定住を促進する目的で拠出したジャパンファンドを（財）日本国際協力センターが契約を受注し、コンポンスプー県周辺の農村基盤整備（農村道路の修復、メインセンターと3箇所のサブセンターの建設等）を行なった後に、日本とアセアン各国（フィリピン、インドネシア、マレイシア、タイの4ヵ国）との共同で農村開発プロジェクトを実施してきた。その後、カンボディアでのＵＮＨＣＲの援助縮少と共に、草の根レベルでの技術協力が拡大し、日本の資金の拠出先がＵＮＤＰに変更され、農村地域開発の強化を行うものである。

(1) 農村基盤整備（1992年12月～1994年3月）

ア．農道改修
イ．貯水池
ウ．内水面漁業施設整備
エ．農村開発センター整備（圃場整備、事務所、研修施設、試験用資機材）
オ．農村サブセンター整備（3箇所）
カ．定住センター整備
　共同圃場整備、公共施設（集会所、職業訓練所、井戸）、教育施設（小学校等）等

(2) 農村地域開発（三角協力）（1994年4月～1995年3月）

農村開発センターとサブセンター及び技術普及対象地域において、アセアン各国が技術者を、日本はＪＯＣＶを合計50名規模で派遣し、下記の分野で協力して総合農村開発のための技術指導を実施する。

ア．農業開発（稲作、畑作、果樹、野菜、畜産、養殖）
イ．生計向上（ドレスメーキング、手芸、木工、陶芸器、美容師、配管、自動車整備、電気等）
ウ．教育向上
エ．公衆衛生

4．経費実績

ＵＮＨＣＲ／ＪＩＣＥ契約金額（1994年3月終了）

ア．農村基盤整備	205,967 千円	（1,691	千ドル）
イ．農村地域開発	107,133 千円	（878	千ドル）
ウ．アセアンからの派遣費	67,087 千円	（551	千ドル）
エ．事務管理費	55,870 千円	（459	千ドル）
合計	436,057 千円	（3,580	千ドル）

5．実施経緯

①プロジェクト形成調査（第1回）	1992年9月
②ＵＮＨＣＲとＪＩＣＥの契約締結	1992年11月
③農村基盤整備	1992年12月～1993年4月
④プロジェクト形成調査（第2回）	1993年2月（アセアンも参加）
⑤プロジェクト形成調査（第3回）	1993年4月
⑥プロジェクト形成調査（第4回）(予定)	1993年9月（アセアンも参加）
⑦日本・アセアン4ヵ国「カ」国でＲ／Ｄ署名	1993年9月
⑧アセアン専門家先発隊派遣	1994年1月～1994年3月
⑨アセアン専門家後発隊派遣	1994年3月～1994年5月
⑩日本・アセアン4ヵ国「カ」国でＲ／Ｄ署名	1994年2月（延長）
⑪UNDPとJICE契約締結	1994年4月
⑫UNDPとJICE契約変更（第1回）	1994年5月（延長）
⑬日本・アセアン4ヵ国「カ」国でＲ／Ｄ署名	1995年3月（延長）
⑭UNDPとJICE契約変更（第2回）	1995年4月（延長）
⑮UNDPとJICE契約変更（第3回）	1995年5月（延長）

6．本格活動内容

専門家・ＪＯＣＶの投入

1995年10月1日現在

派遣国		農業分野	生活向上	教育向上	公衆衛生	合　計
フィリピン	94年度	10	0	0	0	10
	95年度	10	0	0	0	10
インドネシア	94年度	6	0	0	4	10
	95年度	6	0	0	4	10
マレイシア	94年度	0	10	0	0	10
	95年度	0	10	0	0	10
タイ	94年度	4	2	2	2	10
	95年度	3	1	0	2	6
JOCV	94年度	3	3	2	2	10
	95年度	2	2	3	2	8
合計	94年度	23	15	4	8	50
	95年度	21	12	3	8	44

7．人員構成

	1994－95	1995－96	
ナショナルプロジェクトコーディネーター	Mr.Ngy Chan phal	〃	(カンボディア政府)
プロジェクトマネージャー	寺坂　格司	浜田　多佳夫	(JICA専門家)
アシスタントプロジェクトマネージャー	Ⅰ．Mr.Ten Pesoi	〃	(カンボディア政府)
〃	Ⅱ．斎藤　之弥	〃	(JICE職員)
〃	Ⅲ．伊藤　耕三 坂田　多佳夫	野辺　功	(JICA専門家)
〃	Ⅳ．(ポスト無し)	田中　修	(JICA専門家)
財務管理員	和田　光弘	〃	(JICE職員)

95年度　派遣計画

Assignment plan of Experts for RO&RP in 1995

	Indone-sia	Malaysia	Philip-pines	Thailand	JOCV	Total
1. Agricultural Development (21)						
(1) Rice growing	2			1	1	4
‡ Rice seed production				1		1
‡ Training and Extension						
‡ Demonstration						
‡ Water Management/Irrigation						
‡ Cropping pattern						
‡ Agricultural machines						
‡ Post harvest						
(2) Vegetable growing	1		4			5
‡ Trial and Demonstration						
‡ Soil improvement						
‡ Post harvest			1			1
(3) Fruit growing			3			3
‡ Tree nursery						
‡ Extension						
(4) Subsidiary Crops	1		2			3
‡ Demonstration and extension						
(5) Animal husbandry	1				1	2
‡ Propagation						
‡ Training and extension						
‡ Veterinary						
(6) Fish culture	1			1		2
‡ Hatch and rasing fries						
‡ Training and extension						
2. Income generating Livelihood Dev. (14)						
‡ Dress making				1	1	2
‡ Ceramics					1	1
‡ Handicraft				1		1
‡ Electrical installation		2				2
‡ Metal fabrication & Welding		1				1
‡ Motorcycle repair		2				2
‡ Carpentry Joinery		3				3
‡ Brick laying & Piping		2				2
‡ Plumbing						
3. Upgrade Education (5)						
‡ English education				2		2
‡ Support for education					3	3
4. Upgrade Public Health (10)	4			3	3	10
‡ Primary health care						
‡ Training						
5. Rural Credit						
Total	10	10	10	10	10	50

Note: One of experts' in a section of Agricultural Development will work for Rural Credit.

95年度　職種・国別派遣実績

Assignment of Experts for RD&RP

As of 01 December, 1995

	Indonesia	fe	Malaysia	fe	Philippines	fe	Thailand	fe	JOCV	fe	Total	fe
1. Agricultural Development (21)												
(1) Rice growing	2						1		1		4	
‡ Rice seed production							1				1	
‡ Training and Extension												
‡ Demonstration												
‡ Water Management/Irrigation												
‡ Cropping pattern												
‡ Agricultural machines												
‡ Post harvest												
(2) Vegetable growing	1				4	2					5	2
‡ Trial and Demonstration												
‡ Soil improvement					1	1					1	1
‡ Post harvest												
(3) Fruit growing					3						3	
‡ Tree nursery												
‡ Extension												
(4) Subsidiary Crops	1				2						3	
‡ Demonstration and extension												
(5) Animal husbandry	1								1	1	2	1
‡ Propagation												
‡ Training and extension												
‡ Veterinary												
(6) Fish culture	1						1				2	
‡ Hatch and rasing fries												
‡ Training and extension												
2. Income generating Livelihood Dev. (13)												
‡ Dress making							1	1	1	1	2	2
‡ Hair dressing									1	1	1	1
‡ Ceramics												
‡ Handicraft												
‡ Electrical installation			2								2	
‡ Metal fabrication			1								1	
‡ Motorcycle repair			2								2	
‡ Carpentry joinery			3								3	
‡ Brick laying			2								2	
‡ Plumbing												
3. Upgrade Education (3)												
‡ English education									3	2	3	2
‡ Support for education												
4. Upgrade Public Health (9)	4						3		2	2	9	2
‡ Primary health care												
‡ Training												
Total	10		10		10	3	7	1	9	7	46	11

Note: fe stands for female, Dev. for Development.

95年度 国別派遣者

Annex 1. Assignment of Experts for RD & RP

Field (Apr. 94)	Name (Apr. 94)	Extend (Apr. 95)	New (Apr. 95)	Expected Arrival Date
Indonesia				
Public Health	Mr. DRS. Manan	Mr. DRS. Manan		31 May.
Rice Growing	Mr. Jajat Ruchjat		Mr. A. S. Syamsudin	14 Jun.
Water Manag.	Mr. Rusli Mz. Ir.	Fish Culture	Mr. Lalu Mayadi	14 Jun.
Subsidiary Cr.	Mr. Widodo T. Jogajana	Plant Protection	Mr. Dariminto	14 Jun.
Livestock	Mr. Imron	Mr. Imron		31 May.
Vegetable Gr.	Mr. Alisman Agoes	Mr. Alisman Agoes		31 May.
Rice Growing	Mr. Ali Bosar Harahap		Mr. Buchori Kusman	14 Jun.
Public Health	Mr. Yadi Ismail A. B.		Mr. Nicolaus	31 May.
Public Health	Mr. Wayan Marthayasa	Mr. Wayan Marthayasa		31 May.
Public Health	Mr. Ichwan Dawam		Mr. D. Kusdani Deden	31 May.
Japan				
Rice Growing	Mr. Odashima Nariyoshi		Mr. Uegaki Yuugo	11 Jul.
Dress Making	Ms. Nakanishi Kazumi		Ms. Ishikawa Yukie	04 Apr.
Ceramic	Mr. Onohara Takashi		Ms. Adachi Koru	04 Apr.
Veterinary	Mr. Kinoshita Hidetoshi		Ms. Kutsuzawa Shigeko	11 Jul.
Agro-Machinery	Mr. Tanaka Osamu	Mr. Tanaka (APM-4)	Mr. Sakurai Takeshi	20May06Dec
Education	Mr. Nobe Takashi	Mr. Nobe (APM-3)	Ms. Matsuura Kae	20May11Jul
Education	Mr. Haraguchi Akihisa	Mr. Haraguchi A.		19 Jun.
Hair Dressing	Mr. Ihara Shinsho	Education	Ms. Maruno Satomi	11 Jul.
Public Health	Ms. Fukuda Makiko		Ms. Yamagami Kagumi	11 Jul.
Public Health	Ms. Ueno Kyoko	Ms. Ueno Kyoko		19 Jun.
Malaysia				
Electrical I.	Mr. Che Kholid	Motorcycle R. (T. I.)	Mr. Md. R. B. Ghazali	May 28.
Metal Fabric.	Mr. MD. Sararom	Welding	Mr. Shafie B. Alan	do.
Bricklaying	Mr. Aziz Bin Che Bing	Electrical I.	Mr. Ghazali b. Mansor	do.
Electrical I.	Mr. Suhaimi B. Ismail	〃	Mr. Wan A. B. W. Jusoh	do.
Motorcycle R.	Mr. MD. Zaki B. Mahmood	Crapentry &	Mr. Md. D. B. Md. Tassin	do.
Carpentry &	Mr. MD. Ghazali	Joinery	Mr. E. B. Abd. Rani	do.
Joinery	Mr. Ariffin B. Z. Abidin	〃	Mr. M. J. B. Saad	do.
Plumbing	Mr. Abu Bakar A. B. Ramli	Brick laying &	Mr. O. B. Suradi	do.
Plumbing	Mr. Zolkalpli B. Masood	Piping	Mr. T. B. Abd. Hamid	do.
Bricklaying	Mr. MD. Zuki Abu Bakar	Mortorcycle R.	Mr. S. B. Karim	do.
Philippines				
Vegetable Gr.	Ms. Rebecca T. Lacson	Ms. Rebecca T. Lacson		May 23.
Subsidiary Cr.	Mr. Ariel J. Bayot	Mr. Ariel J. Bayot		do.
Fruit Growing	Mr. Danilo T. Dannug	Mr. Danilo T. Dannug		do.
Subsidiary Cr.	Mr. Domingo P. Nilo	Mr. Domingo P. Nilo		do.
Fruit Growing	Mr. Leonardo de Guzman	Mr. Leonardo de Guzman		do.
Post Harvest	Ms. Lolita C. Tapia	Ms. Lolita C. Tapia		do.
Vegetable Gr.	Ms. Ma.-Helen Rantuga	Ms. Ma.-Helen Rantugan		do.
Vegetable Gr.	Mr. Nestor B. Rivera	Mr. Nestor B. Rivera		do.
Vegetable Gr.	Mr. Oscar G. Aala	Mr. Oscar G. Aala		do.
Fruit Growing	Mr. Romeo P. Ayos	Mr. Romeo P. Ayos		do.
Thailand				
Rice Growing	Mr. Niponkit Wuti	Mr. Niponkit Wuti		05 Jun.
Fish Cul.	Mr. Panupan Vannasurachat	Mr. Panupan Vannasurachat		05 Jun.
Rice Growing	Mr. Sanit Mano Ekkul	Mr. Sanit Mano Ekkul		05 Jun.
Rice Growing	Mr. Chumnean Tong Thai		‡	‡
Engl. Education	Mr. Paiboon Kamjanapan		‡	‡
Public Health	Mr. Dussadee Sangdum	Mr. Dussadee Sangdum		05 Jun.
Public Health	Mr. Sawaeng Gaewprasong	Mr. Sawaeng Gaewprasong		05 Jun.
Handicr.	Mr. Charkree Sirisoontaranon	Public Health	Mr. Banthaong Suphun	23 Nov.
Dress Making	Ms. Sompis Thammattana		Ms. Kanan Onnang	30 Sep.
Engl. Education	Ms. Kannika Martom		‡	‡

96年度　派遣計画

Assignment of Experts for RD&RP in 1996

	Total
1. Agricultural Development (22)	
(1) Rice growing	4
‡ Rice seed production	1
‡ Training and Extension	
‡ Demonstration	
‡ Water Management/Irrigation	
‡ Cropping pattern	
‡ Agricultural machines	1
‡ Post harvest	
(2) Vegetable growing	5
‡ Trial and Demonstration	
‡ Soil improvement	
‡ Post harvest	1
(3) Fruit growing	3
‡ Tree nursery	
‡ Extension	
(4) Subsidiary Crops	3
‡ Demonstration and extension	
(5) Animal husbandry	2
‡ Propagation	
‡ Training and extension	
‡ Veterinary	
(6) Fish culture	2
‡ Hatch and rasing fry	
‡ Training and extension	
2. Income generating Livelihood Dev. (14)	
‡ Dress making	2
‡ Ceramics	1
‡ Handicraft (textile)	1
‡ Electrical installation	2
‡ Metal fabrication & Welding	1
‡ Motorcycle repair	2
‡ Carpentry joinery	3
‡ Brick laying & Piping	2
‡ Plumbing	
3. Upgrade Education (5)	
‡ English education	2
‡ Support for education	3
4. Upgrade Public Health (9)	9
‡ Primary health care	
‡ Training	
5. Sericulture	
Total	50

Note: One of experts in a section of Agricultural Development will work for Sericulture.

សហប្រតិបត្តិការ មិត្តភាព

កម្ពុជា ឥណ្ឌូនេស៊ី ជប៉ុន ម៉ាឡេស៊ី ហ្វីលីពីន ថៃឡង់ដ៍

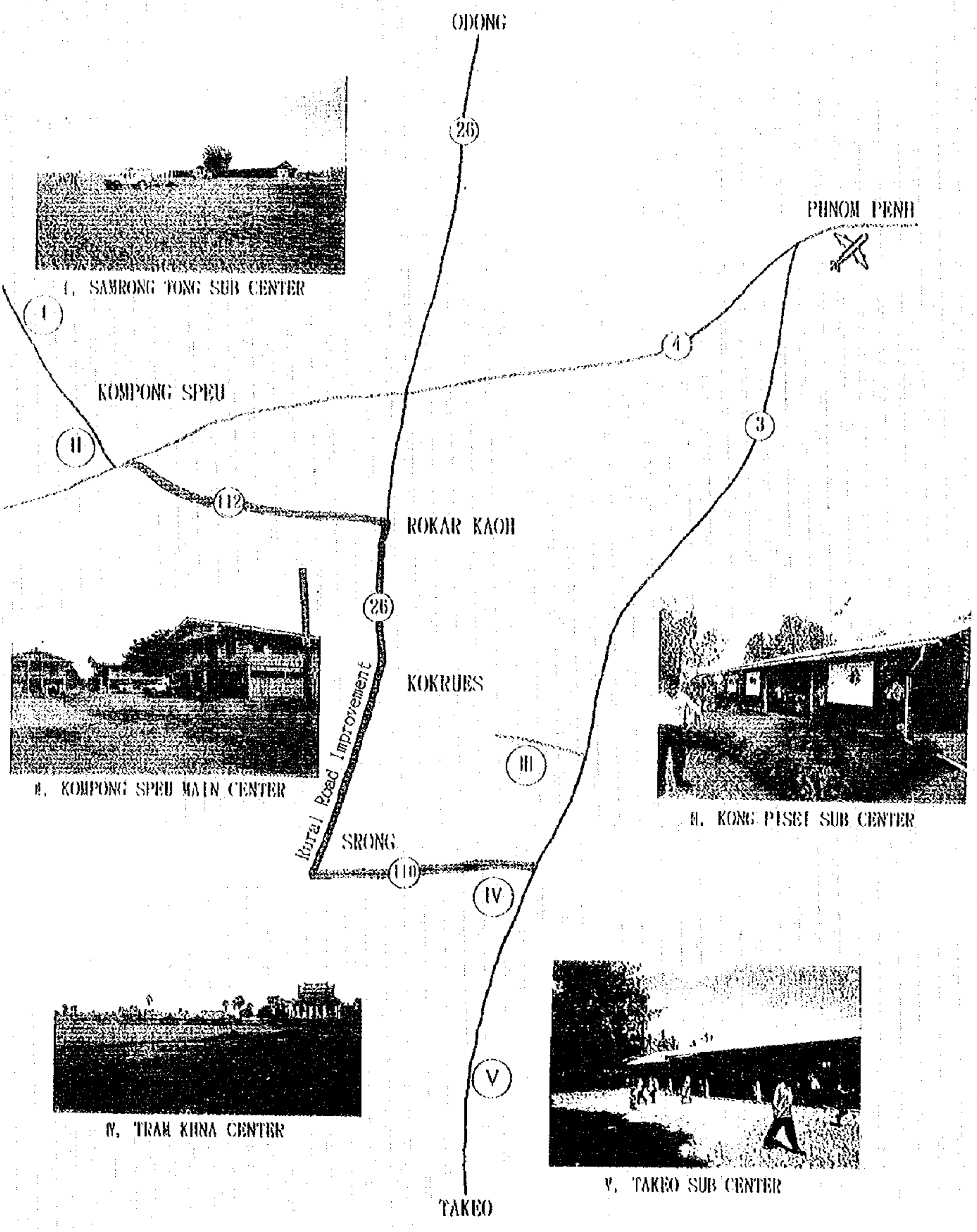
គំរោងអភិវឌ្ឍន៍ជនបទ និង ការតាំងទីលំនៅ

FRIENDSHIP COOPERATION

Cambodia, Indonesia, Japan, Malaysia, The Philippines and Thailand

Rural Development and Resettlement Project

DEVELOPMENT CENTERS



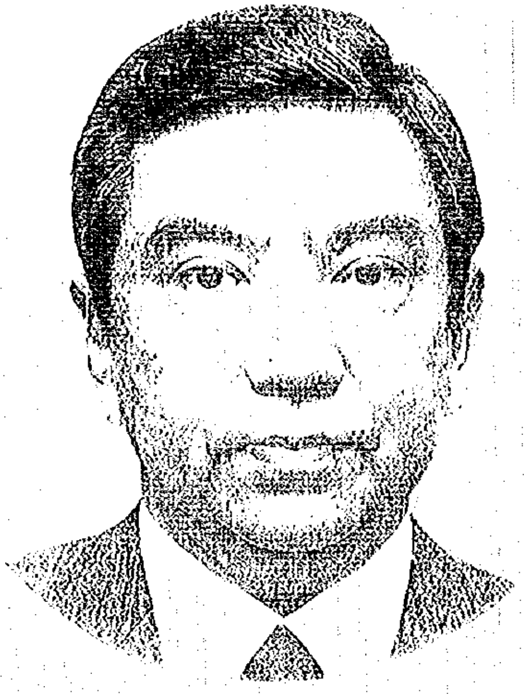
I. SAMRONG TONG SUB CENTER

II. KOMPONG SPEU MAIN CENTER

III. KONG PISEI SUB CENTER

IV. TRAM KHNA CENTER

V. TAKEO SUB CENTER



MESSAGE FROM H.E.M. YOHEI KONO,
VICE PRIME MINISTER AND MINISTER FOR FOREIGN AFFAIRS,
THE GOVERNMENT OF JAPAN

"The tri-partite cooperation is under implementation as the first trial of 'South to South cooperation'. It utilizes knowledge and technology of the experts from the ASEAN countries where natural, climatic and geographical conditions are similar to Cambodia.

I understand the Project is proceeding effectively with a good cooperation between Japan and the ASEAN countries. The Project has been highly appreciated. It is the biggest technical and vocational training in the rural areas of the Kingdom of Cambodia.

Th's is the first attempt of this kind for Japan. If we can continue to get good cooperation from these countries, I feel confident of success in 'South to South coopearation' projects.

On behalf of the Japanese Government, I would like to express sincere thanks to the governments of the ASEAN countries involved, as well as to their experts. It is our hope that all of the experts will help and contribute to the development of Cambodia."

រាជរដ្ឋាភិបាលនៃព្រះរាជាណាចក្រ កម្ពុជា បានយកចិត្តទុកដាក់ ការងារអភិវឌ្ឍន៍ជនបទ ជាយុទ្ធវិធី ចំបង និងជាគន្លឹះក្នុងការ :

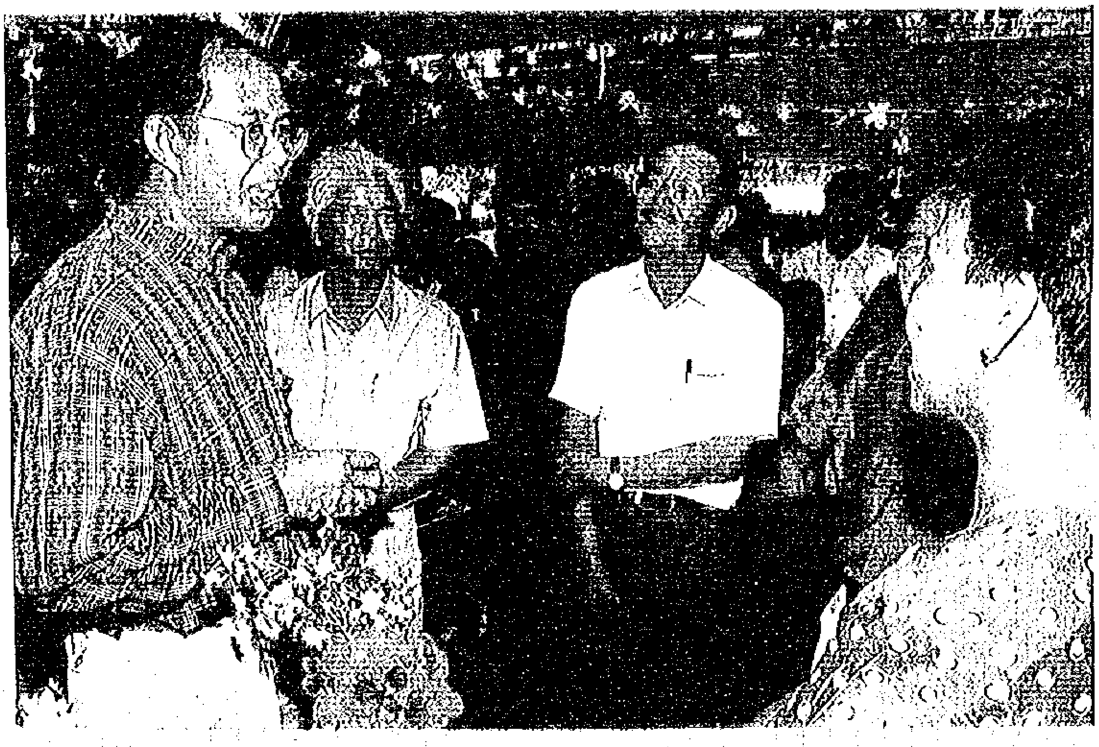
ថែរក្សាសន្តិភាពជូនប្រទេសជាតិ

ជួយលើកកំពស់ជីវភាពរស់នៅ របស់ប្រជាពលរដ្ឋ

ជាសក្ខីភាពបញ្ជាក់នូវការយកចិត្តទុកដាក់ ចំពោះបញ្ហានេះ ប្រមុខរាជរដ្ឋាភិបាល ដែលមាន:

សម្តេចក្រុមព្រះ នរោត្តម រណឫទ្ធិ នាយករដ្ឋមន្ត្រី ទី១ បានយាងជាព្រះរាជអធិបតីភាព ក្នុងពិធីសម្ពោធបើកការដ្ឋាន " អភិវឌ្ឍន៍ជនបទ និងការតាំងទីលំនៅ " ក្នុងខេត្តកំពង់ស្ពឺ និងតាកែវ នាថ្ងៃទី ១៨ មិថុនា ១៩៩៤ ដើម្បីពន្លឿនការជួយប្រជាពលរដ្ឋតាមទិសដៅ ។

សម្តេច ហ៊ុន សែន នាយករដ្ឋមន្ត្រី ទី២ បានអញ្ជើញធ្វើទស្សនកិច្ច តាមបណ្តាទីតាំងសកម្មភាព នានារបស់គំរោង នាថ្ងៃទី ១៤ វិច្ឆិកា ១៩៩៤ ដែលជាការលើកទឹកចិត្តដ៏ខ្លាំងក្លាដល់ គំរោង និង ប្រជាពលរដ្ឋ ក្នុងការចូលរួមចំណែក អភិវឌ្ឍន៍មូលដ្ឋាន ។



The Royal Government of the Kingdom of Cambodia considers the rural development activities as a main strategy and key to:

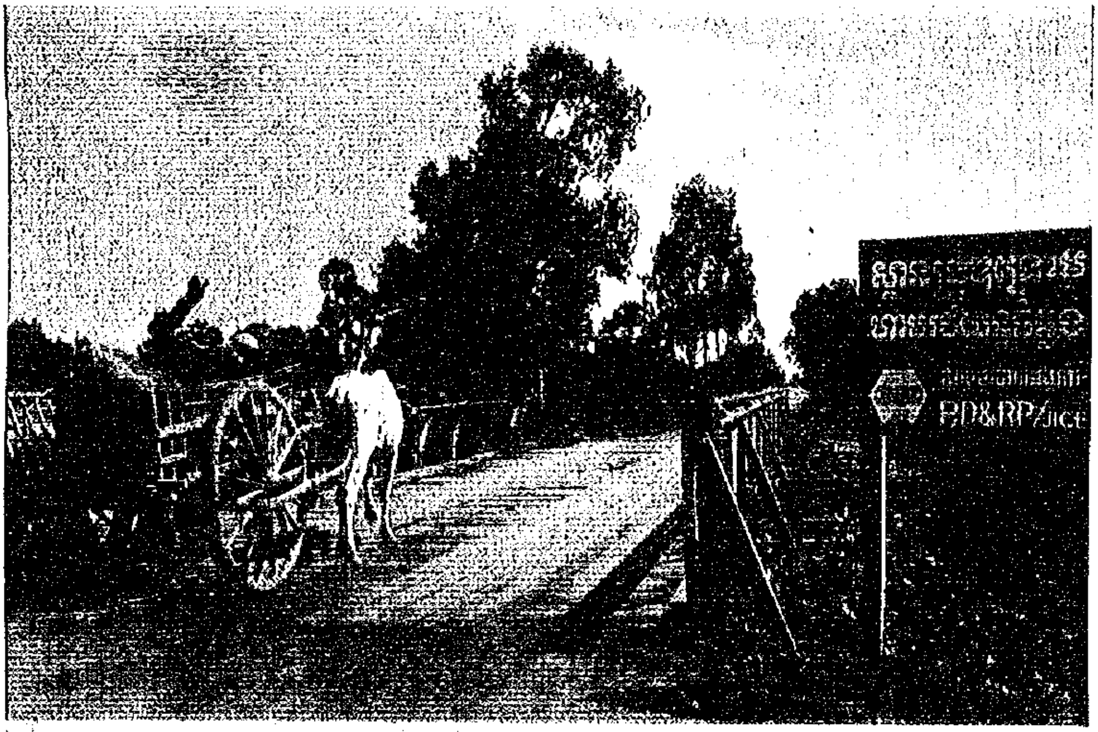
- find peace for the people and the nation, and
- better living condition of the people in rural area.

As the evidence, the leaders of the Royal Government paid the close attention to rural development activities:

*HRH Samdech Krum Preah Norodom Ranariddh, First Prime Minister presided the Opening Ceremony of "Rural Development and Resettlement Project" in Kompong Speu and Takeo Provinces on 18th June, 1994 for a harmonious and efficient implementation of the Project to help people as it was planned.

*Samdech Hun Sen, Second Prime Minister of the Royal Government takes the opportunity to visit several sites of the Project on 14th November, 1994 to encourage the Project and the people who participate in the program of rural development.

អ្វីទៅជាគំរោងអភិវឌ្ឍន៍ជនបទ និង ការតាំងទីលំនៅ ?



" Thank you for the bridge, I can pass freely now."

រដ្ឋាភិបាលជប៉ុន បានលើកសំណើ "សហប្រតិបត្តិការ ត្រីភាគី" រវាងជប៉ុន និងប្រទេស អាស៊ាន ដើម្បីជួយកម្ពុជា ក្នុងការអភិវឌ្ឍន៍ជនបទ និងការតាំងទីលំនៅជនភៀសខ្លួន ។ សំណើនេះបានលើកឡើងនៅសន្និសីទប្រជុំថ្នាក់រដ្ឋមន្ត្រី នៅទីក្រុងតូក្យូ នាថ្ងៃទី ២៨ កុម្ភៈ ១៩៩២ ហើយគំនិតនេះ ត្រូវបានប្រទេសទាំង ៦ បានគាំទ្រនៅភ្នំពេញ ថ្ងៃ ៣០ កញ្ញា ១៩៩៣ ក្នុង "គំរោងគំរូសហប្រតិបត្តិការចំពោះ ផែនការអភិវឌ្ឍន៍ជនបទ និង ការតាំងទីលំនៅ នៅកម្ពុជា"។ ជំនួយសំរាប់គំរោងត្រូវផ្តល់ដោយរដ្ឋាភិបាលជប៉ុន តាមរយៈទីភ្នាក់ងារ សហប្រជាជាតិ ។

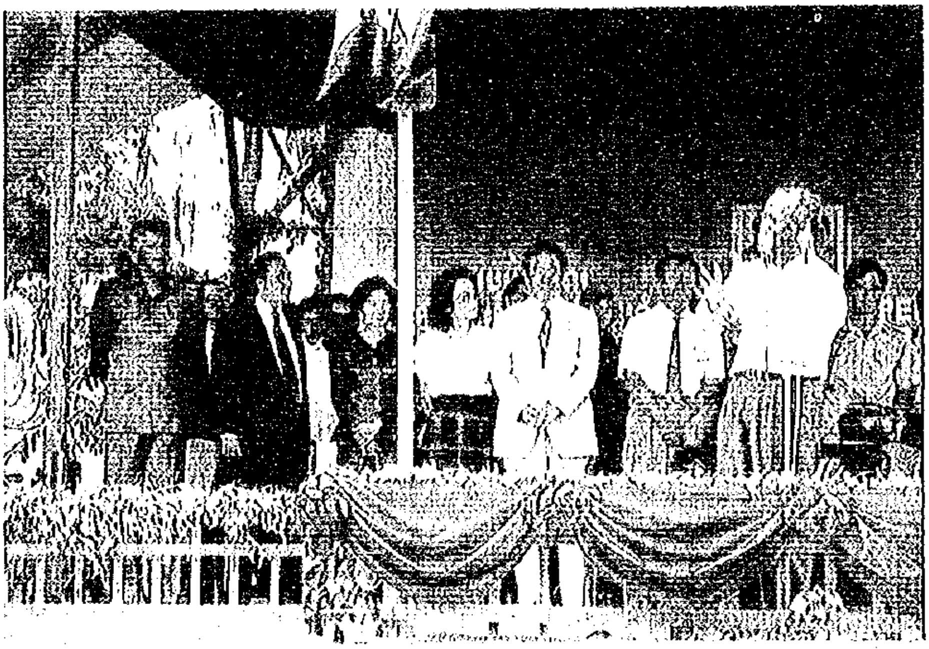
គំរោងបានចាប់ផ្តើមនៅថ្ងៃទី ០១ ខែ[illegible] ១៩៩៤ ដោយសហការជាមួយក្រុមការងារនៅជនបទ ក្នុងនោះមាន ប្រជាជនជាច្រើនត្រូវបានជ្រើសរើស សំរាប់អភិវឌ្ឍន៍ ក្នុងឆ្នាំ១៩៩៣ និងសំរាប់គាំទ្របន្ថែមទៀតនៅឆ្នាំខាងមុខ ។ ប្រទេសទាំង៩ បានបញ្ជូនអ្នកជំនាញសរុបចំនួន ១០នាក់ពីប្រទេសនីមួយៗមកធ្វើការ ដោយបានត្រៀមផង ។ បន្ទាប់ពី ធ្វើការសិក្សាស្រាវជ្រាវ អ្នកជំនាញបានចាប់ផ្តើមការងាររបស់ខ្លួន ។ គំរោងអភិវឌ្ឍន៍ជនបទ បានបញ្ចូនអ្នកពិគ្រោះ ដែលធ្វើការជាមួយអ្នកជំនាញក្រុមរបស់ ដើម្បីបន្តការងារទៅអនាគត ។ គំរោងបានចំណាយថវិកាច្រើនជាងគេ នៅ សំរាប់ប្រជាពលរដ្ឋនៅជនបទ នាខេត្តកំពង់ស្ពឺ និងតាកែវ តាមរយៈវិស័យពីរ ដូចជា:

កសិកម្ម ការបង្កើនប្រាក់ចំណូលបន្ថែម ផ្លូវ និង សុខាភិបាល

អ្នកជំនាញបានសាកល្បងផ្តល់ឱកាសដល់ប្រជាពលរដ្ឋនៅជនបទតាមបណ្តាខេត្ត និងគោលនយោបាយរបស់រដ្ឋាភិបាលកម្ពុជា និងមានការចូលរួមពីសំណាក់ប្រជាពលរដ្ឋម្ចាស់ស្រុក ។

ស្ពានដែលបានបង្ហាញ គំរោងបានជួយសង្គ្រោះពលរដ្ឋ ក្រោយពេលសាងសង់ស្ពាន មានដីរីករាលធំ និងកង្វះខាតទឹកក្នុងស្រែ ។ គំរោងបានផ្តល់ចំនួន ៦០០គីឡូ "ទឹកស៊ីម៉ងត៍" ចូលរួមរៀបចំការប្រកួតប្រជែង ដើម្បីរើសពូជ ចូលរួមពីអ្នកស្រុក នៅទីក្រុងហ៊ីរ៉ូស៊ីម៉ា ។

What is RD & RP ?



The Project Opening Ceremony on 18th June 1994

The Government of Japan proposed a 'Tripartite Cooperation' of Japan and ASEAN countries to assist Cambodia in developing rural areas and resettling displaced persons at the Post-Ministerial Conference in Manila on 24th July, 1992 and the idea was agreed later with the six participating countries in Phnom Penh on 30th September, 1993 as the 'Record of Discussions on the Joint Cooperation for the Rural Development and Resettlement Project in Cambodia'. The Government of Japan funds the total project costs through UN organization.

The Project started on 1st December, 1992, constructing rural infrastructure of 42 km Provincial roads and four development centers in 1993, and built another center later at Tram Khna. The five countries dispatched 10 experts from each country with a total of 50 experts including eight women. The experts started their work after needs study in the target areas. Ministry of Rural Development attaches a counterpart to each expert to sustain the activities in the future. The Project aims at improving rural life in Kampong Speu and Takeo Provinces in the following fields.

Agriculture, Income Generation, Education, Public health

The experts have been trying to transfer basic skills to the local population, adaptable to the local standard in accordance with the policy of the Cambodian government. The Project attaches the greatest importance on local participation.

Other than those daily works, the Project helps people often in emergency cases as the flood, cholera outbreak and water shortage to paddy fields. The Project supported 'Tree Planting Day', providing 600 tree seedlings. The Project joined also in 'Marathon Race' held in July, 1994 along the roads rehabilitated by the Project to select an athlete for Asian Games in Hiroshima.

កសិកម្ម

The golden field of dreams

កសិកម្មជាវិស័យគ្រឹះសំខាន់នៃការអភិវឌ្ឍន៍នៅតាមជនបទ ។ គំរោងជាច្រើនបានប្រព្រឹត្តទៅដើម្បីជួយគាំទ្រផ្នែកទាំងអស់នៃវិស័យនេះ រួមមាន ដំណាំស្រូវ ប្រព័ន្ធស្រោចស្រពខ្នាតតូចមធ្យម ផ្សព្វផ្សាយកសិកម្ម បន្លែ ឈើហូបផ្លែ ការចិញ្ចឹមសត្វ និងការចិញ្ចឹមត្រី ដោយមានគំរោងសរុបចំនួន ២២គំរោង ។

ផ្នែកដំណាំស្រូវមានគោលការណ៍បង្កើនទិន្នផល និងផលិតកម្ម តាមរយៈពូជស្រូវល្អ បង្រៀនក្បាច់ការផ្សព្វផ្សាយដល់កសិករ រៀបចំប្រព័ន្ធស្រោចស្រពខ្នាតតូចមធ្យម និងប្រព័ន្ធដំណាំ ។

ចំណែកដំណាំរួមផ្សំ និងបន្លែ បានណែនាំកសិករឲ្យប្រើប្រាស់ពូជទំនើបក្នុងការដាំដំណាំ ដើម្បីបង្កើនផលនិងប្រាក់ចំណូលសំរាប់គ្រួសារ ។ ការដាំដើមឈើហូបផ្លែ រួមមានធ្វើថ្នាលបណ្តុះ និងដាំតាមចំការ បានប្រព្រឹត្តទៅដោយការជ្រើសរើសពូជល្អ និងការថែទាំ ។ ការអនុវត្តជាក់ស្តែង គឺបង្រៀនដល់ក្រុមការផ្សព្វផ្សាយនិងកសិករ ពីរបៀបដាំដុះ ការដាក់ជី ការកំចាត់សត្វល្អិត និងការប្រមូលផល ។ ការបង្រៀនពីការកែច្នៃម្ហូបអាហារ បានទាក់ទាញស្ត្រីមេផ្ទះជាច្រើនតាមភូមិនានា ហើយក្រុមការងារសុខាភិបាលបានពិនិត្យឃើញថា សុខភាពប្រជាពលរដ្ឋមានភាពល្អប្រសើរបន្ទាប់ពីបានទទួលនូវចំណីអាហារជាច្រើនមែន ។

ផ្នែកចិញ្ចឹមសត្វបានធ្វើការពិនិត្យសុខភាពសត្វ ការចាក់ថ្នាំ បង្កាត់ពូជ សំអាតទ្រុងគោក្របី ធ្វើជីកំប៉ុស រៀបចំទុកដាក់ចំណីសត្វ និងរបៀបភ្ញាស់ពងមាន់ ។

ត្រីទឹកសាប ជាប្រភពប្រូតេអ៊ីនយ៉ាងសំខាន់ចំពោះប្រជាពលរដ្ឋនៅជនបទ ។ បច្ចេកទេសនៃការចិញ្ចឹមត្រីនិងផលិតពូជត្រី ត្រូវបានផ្ទេរដល់អ្នកបច្ចេកទេស និងកសិករ តាមការបង្រៀនរបៀបបង្កាត់តាមបែបសិប្បនិម្មិត ការស្ទូង និងផ្តល់ចំណី ក្នុងគោលបំណងផ្សព្វផ្សាយ ពូជត្រីរាប់លានក្បាល ដូចជា: ត្រីឆ្ពិន ទីឡាព្យា កាបសាមញ្ញ និងត្រីអណ្តែង ដល់ប្រជាពលរដ្ឋ ។

AGRICULTURE

Agriculture is a base of rural life, outweighing any other industries in the rural areas. The Project endeavors on the whole field of agriculture including rice, small scale irrigation, farm machines, vegetables, fruit tree, subsidiary crop, livestock and fresh water fish by 22 experts.

Rice growing is aimed at increasing the yield and seed production by demonstration, training extension workers and farmers, small scale irrigation and an innovative farming system.

Vegetables and subsidiary crops are introduced intensively to farmers to utilize idle lands through an integrated farming system, contributing to family nutrition and additional income. Fruit management includes establishment of nurseries and orchards, selection of good mother trees for asexual propagation and maintenance of trees. Farm practices are trained to farmers and extension workers on planting, application of fertilizer, pest control and harvest. Seminars on food preservation have attracted many housewives in villages, and are often held with health workers to secure a continuous supply of nutrition.

Animal husbandry works on animal health, grass growing, cattle breeding, building a model stall, pit compost, silage and incubation of chickens.

Fresh water fish are very important source of protein to the local population. Fish culture transfers technologies to techinicians and farmers on fry production through artificial fertilization, hatchery and fish feeding, targeting to propagate a million fry of common carp, common silver barb, telapia and cat fish.

Transfer simple but effective technology

Simple incubator

Plant propagation by grafting

ការបង្កើនបន្ថែមប្រាក់ចំណូល

ស្ត្រីម្នាក់ស៊ីរបស់មិនដែលថា "ឆ្លងកាត់ដោយទុក្ខវេទនា ពាក់ព័ន្ធនឹងកុមារកំព្រា តែមិនត្រៀមទេ ដោយនេះស្ងួតត្រី គេអាចប្រកបរបរនេះបានរួចជីវិត" ។ យោងតាមគំនិតនេះ គំរោងការបើកវគ្គរៀនស្ត្រីដោយផ្តល់ជូនចំណេះដឹងជាមូលដ្ឋានរយៈពេលពីរ ពីរទៅបីខែ ក្នុងប្រទេសកម្ពុជាតាមទីប្រជុំជន ដែលជាយុទ្ធសាស្ត្រដើម្បីលើកកំពស់ជីវភាពរស់នៅ ប្រកបរបរចិញ្ចឹមជីវិតនៅថ្ងៃអនាគត ។ ឆ្នាំ១៩៩៥មានចំនួន ១៩នាក់បានបញ្ចប់មុខវិជ្ជាផ្សេងៗ ស្ត្រីនិងបុរសជាច្រើនទៀត តាមភូមិផ្សេង ដើម្បីបង្កើនបន្ថែមប្រាក់ចំណូល ។ មុខវិជ្ជាទាំងនោះមាន :

កាត់ដេរសំលៀកបំពាក់	កាត់សក់ ផាត់មុខ	ត្បាញ
ចំអិនម្ហូប	ជួសជុលម៉ូតូ	ត្បាញកក
រៀបចំផ្កា	ជាងឈើ	ជាងទឹក
	គំរោងបរិក្ខារអគ្គិសនី	

វគ្គរៀនស្ត្រីទាំងអស់បានបើកឡើងនៅតាមខេត្ត ដូចជានៅភ្នំពេញកំពង់ស្ពឺ អន្លង់វែងកំពត និងតាកែវ ។ វគ្គរៀនស្ត្រីមួយចំនួន បានផ្តោតលើផ្នែកម្ហូប និងអគ្គិសនី ឬជាពិសេសលើផ្នែករៀបចំ និងជាងឈើ បានចូលរួមក្នុងការតាំងពិព័រណ៍ ដែលស្ត្រីនៅតែមិនសូវមានទេ ។

ក្រោយវគ្គរៀនស្ត្រីទាំងអស់ បានទាក់ទាញប្រជាជនអោយជាច្រើនអោយចូលរួម ហើយក្រោយមកពេលនេះបានសិក្សាការបណ្តុះ ៣៦៥នាក់ ។ នៅក្រោយវគ្គទាំងអស់ បានចូលរួមបន្តនិងការសិក្សាបណ្តុះផែនការ ហើយពេលខ្លះបានច្រើនហួសការស្មាន ។ តាមរយៈការរៀនស្ត្រីទាំងនេះ គេឃ្លាំមើលគិតជឿជាក់លើការយកចំណេះដឹងនៅប្រកបរបរចិញ្ចឹមជីវិតបាន ក្នុងពេលខាងមុខ ដោយគេអាចរកស៊ីលក់ដូរ ឬអាចបើកអាជីវកម្មដោយខ្លួនឯង ។

ដើម្បីជួយសំរួលក្នុងការរៀបចំវគ្គ នៅពេលបញ្ចប់វគ្គរៀនស្ត្រី សិក្ខាកាមម្នាក់ៗបានទទួលនូវវិញ្ញាបនប័ត្របញ្ជាក់ការសិក្សា ដែលចេញដោយក្រសួងអភិវឌ្ឍន៍ជនបទ និងកំលាំង ។

INCOME GENERATION

A Chinese maxim says, "Give a man a fish, it will be finished in a day, but teach him fishing, it will remain in the whole life". Following the idea, the Project offers a short term basic skill training ranging from three to six months, giving better ways of earning their livings in the rural areas.

The Project provides women and youths with various trainings by 15 instructors in order to generate income as follows;

Dress making,	Hair dressing,	Ceramics,
Woodworks,	Motorcycle repair,	Metal fabrication,
Brick laying,	Carpentry & joinery,	Plumbing and
Electrical installation		

All the courses perform a centralized training at development centers of the Project such as Kampong Speu Main Center, Kong Pisey Sub center and Takeo Sub center. A few courses undertake on-the job training in practical works as building schools by trainees of brick laying course and carpentry & joinery course for example, joining in educational activities.

All the training courses attract many people for participation, totalling 368 trainees so far. All the courses received more candidates of trainees than planned and sometimes too many. Trainees really hope and are confident to uplift their livings in the future through these courses. One may work with somebody or open up his own business after completing the training.

At the end of a course, all the trainees are offered a Certificate of Achievement issued by Ministry of Rural Development and the Project which may help them find a job.

វិស័យអប់រំ

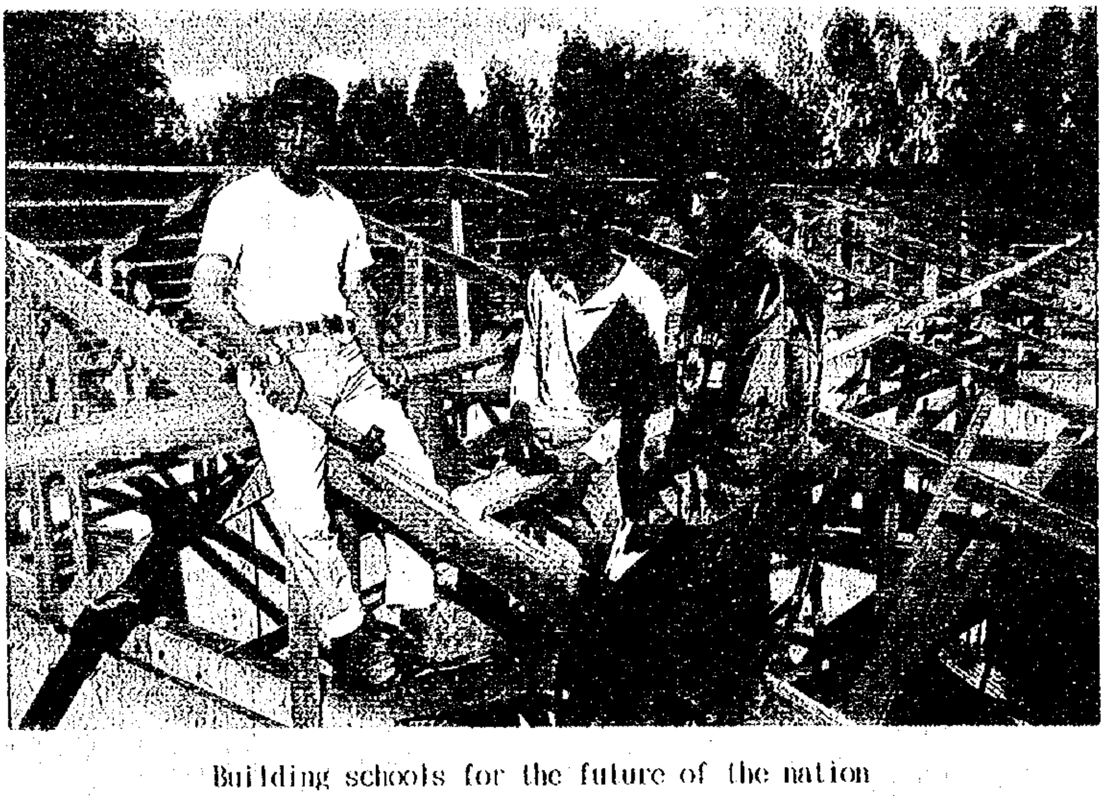
ការស្ទង់មតិដែលធ្វើឡើងដោយគំរោង ក្នុងខែមិថុនា ១៩៩៤ នៅស្រុកគងពិសី ខែត្រកំពង់ស្ពឺបានបង្ហាញថា ចំនួន ៦៩% នៃសិស្សរៀន ក្នុងនោះមានកុមារី ៧៨% និងកុមារ ៧២% ។ ក្នុងចំណោមមនុស្សចាស់នៅជនបទអត្រាអក្ខរកម្មមាន៦២,៤% ដោយក្នុងនោះ ស្ត្រីមាន ៥៣.១% និងបុរស ៧៥.៦% ។

វិស័យអប់រំត្រូវតែជាវិស័យដ៏សំខាន់សំរាប់សង្គមជាតិ និងបុគ្គលម្នាក់ៗ ។ អនាគតរបស់សង្គមជាតិពឹងផ្អែកលើកុមារ និងការអប់រំគេទាំងនោះ ដែលលើកទឹកចិត្តឲ្យមានការចូលរួមក្នុងប្រទេសកំពុងអភិវឌ្ឍន៍ ។ ដូច្នេះវិស័យអប់រំ ជាការវិនិយោគដ៏ធំបំផុតសំរាប់អនាគតប្រទេសជាតិ ។

សំរាប់ឆ្នាំ ១៩៩៤នេះ វិស័យអប់រំរបស់គំរោងបានទទួលជោគជ័យគួរឲ្យកត់សំគាល់ ក្នុងកិច្ចដំណើរការជួសជុលអគារសាលា ឬបង្កើតអគារថ្មីដល់សហគមន៍ ជួយសាលាបឋមសិក្សា និងការសិក្សាភាសាអង់គ្លេស ។

គំរោងបានជួយជួសជុលអគារសាលារៀន ៨៣ខ្នង បង្កើនការសិក្សានូវគុណភាពរបស់សាលាបឋមសិក្សា នៅក្នុងខេត្តទាំងពីរ ។ គំរោងមានគោលការណ៍ច្បាស់លាស់ក្នុងការជួយសង់ ឬជួសជុលសាលា គឺទាល់តែមានការចូលរួមពីភូមិ ដែលបានទទួលផលប្រយោជន៍ ។ ដូច្នេះគំរោងផ្ដល់តែសំភារៈសំណង់ និងបច្ចេកទេស ហើយប្រជាពលរដ្ឋភូមិផ្ដល់ ប្រាក់ឧបត្ថម្ភការសាងសង់ ។ មុននឹងចាប់ផ្ដើមសាងសង់ ត្រូវមានការពិភាក្សារវាង គំរោង និងប្រជាពលរដ្ឋភូមិផ្សេង លើគោលការណ៍នេះ ពិតមែនតែត្រូវចំណាយពេលយូរ ប៉ុន្តែនេះជាវិធីមួយដ៏ល្អបំផុត ។ ក្រៅពីនេះ គំរោងបានចែកជូនសម្ភារៈសិក្សាដល់សាលាបឋមសិក្សាមួយចំនួន ដែលពិតជាឃើញថាមានការខ្វះខាត ។ សំភារៈទាំងនេះបានទទួលពីសហគមន៍ជាតិសិស្សប្រទេសជប៉ុន និងអង្គការ CARE ជប៉ុន ។

គ្រូសាលាបឋមសិក្សាក្នុងខេត្តកំពង់ស្ពឺ និងកោះកុងបានរៀននូវវិធីសាស្ត្រថ្មីក្នុងការបង្រៀន ។ គ្រូភាសាអង់គ្លេស ២ នាក់ បានបង្រៀនភាសានេះអស់ឆ្នាំ និងមុខវិជ្ជាផ្សេងៗ នៅសាលាគរុកោសល្យ និងសាលាមធ្យមសិក្សា ក្នុងគោលបំណង និងសេចក្ដីត្រូវការដ៏ធំធេង នូវចំណេះដឹងភាសាអង់គ្លេសដើម្បីបង្រៀននៅជនបទ ។



Building schools for the future of the nation

EDUCATION

Open your eyes to the outside world through learning English

According to a baseline survey held by the Project in June, 1994, 64% of children go to school in Kong Pisey District, Kampong Speu Province, 58% of girls and 72% of boys . And literacy rate is 62.4% among adult population, 43.1% of women and 89.6% of men in the area.

Education needs a lot of money for the nation or for an individual. The future of the nation, however, relies on children, and their education plays the core roll in developing a country. Therefore, education is taken as the biggest investment for the future of the nation.

Education section in the Project was allocated the highest budget for the year of 1994 as well and it has been deploying its activities in improving preschool education, supporting primary education and English education.

The Project has been assisting in rehabilitation of buildings at five schools according to the priority set through studies on primary schools in the two Provinces. The Project strictly keeps the principle that the Project assists schools only when the beneficiaries participate in the work. The Project provides construction materials and building skills, but labors should be provided by the local population, though it often takes long time to agree with the people. But it is a necessary procedure to be taken before starting to work. The Project has been delivering school stationaries such as pencils, notebooks, etc. where the needs are very high in collaboration with PTA in Japan and CARE Japan.

Teachers of preschools are given guidance of new teaching methods in Kampong Speu and Takeo. Two English teachers have been training teachers and provincial staff at Pedagogy school and high school responding to the high demand for English education in the rural areas.

វិស័យសុខាភិបាល

Proper sanitation means healthy living

ការថែទាំសុខភាពបឋមនៅក្នុងសហគមន៍ ជាការចាប់ផ្តើមនៃសុខាភិបាល ។ អ្វីទៅជាការថែទាំសុខភាពបឋម ?

ការថែទាំសុខភាពបឋម គឺធ្វើយ៉ាងណាឲ្យមនុស្សគ្រប់រូបបានសុខភាពល្អ ការការពារជំងឺ ... មាន ការចាក់ថ្នាំបង្ការ មានអនាម័យគ្រប់គ្រាន់ជុំវិញកន្លែងរស់នៅ មានចំណីអាហារគ្រប់គ្រាន់ ជាពិសេសសំរាប់កុមារ និងការ ពិចារណានូវបញ្ហា ហើយនិងយកទៅអនុវត្តនៅតំបន់ខ្លួន ឬបញ្ហាសុខភាព ។

សកម្មភាពរបស់ថ្នាក់ថែទាំសុខភាពបឋមនៅតាមតំបន់ខ្លួន និងបញ្ហាសុខភាពមាន :

- ព្យាបាលជំងឺទូទៅ ថែទាំ ពិគ្រោះជំងឺ
- កុមារ មាតានិងទារក (ថែរក្សាមុនពេលកើត ពេលកើត ក្រោយពេលកើត)
- ចាក់ថ្នាំបង្ការ (របេង ក្អកមាន់ ខ្វិនជើង កញ្ជ្រិល តេតាណូសទារកទើបកើត ខាន់ស្លាក់ និងតេតាណូសចំពោះស្ត្រី មានផ្ទៃពោះ)
- ការពន្យារកំណើត
- អនាម័យទូទៅ អនាម័យជុំវិញកន្លែងរស់នៅ និងប្រភពទឹកប្រើប្រាស់
- អនាម័យសិក្សា
- ផ្ទាល់ពីមាត់ ពីបុគ្គល និងទំនាក់ទំនងការអប់រំសុខភាពស្តីពី :
  - ជំងឺរាតត្បាត
  - អនាម័យផ្ទាល់ខ្លួន អនាម័យជុំវិញការរស់នៅ ការប្រើប្រាស់ទឹកស្អាត
  - ការការពារ
  - បង្កើនសុខភាព
  - បញ្ហាសុខភាពតាមភូមិ និងសហគមន៍
  - កុមារ មាតានិងទារក

បុគ្គលិកសុខាភិបាល ជាអ្នកផ្តួចផ្តើមគំនិត និងដោះស្រាយបញ្ហាទាំងនេះ នៅតាមតំបន់របស់ខ្លួន ដោយមានជំនួយសហការពីអាជ្ញាធរ មូលដ្ឋាន និងជំនួយអង្គការមិនមែនរដ្ឋាភិបាល ។ បុគ្គលិកទាំងនោះទទួលបានការបណ្តុះបណ្តាលនៅតាមវិទ្យាល័យសុខាភិបាលស្រុក ។

PUBLIC HEALTH

The practice of Public Health in the community is Primary Health Care (PHC). Why is it Primary Health Care?

Primary Health Care is to promote healthy living conditions, preventive that it seeks measures to prevent diseases in the population by immunization, better environmental sanitation, better nutrition especially child feeding practice through organized community efforts and early diagnosis, and curative that minor ailments are treated at a clinic or health center.

" Don't cry, little boy."

Primary Health Care services at a Communal Clinic or Health Center are:

- Medical and nursing care, including health consultation,
- Maternal and child health care (Prenatal, natal and postnatal care),
- Immunization (BCG, DTC, Polio, Measels for children below 5 years old and Tetanus for pregnant women)
- Delaying the interval of pregnancy,
- Hygiene, environmental sanitation and safe water supply,
- School health and
- Giving information, guidance, counseling or health education on:
  - Nutrition,
  - Personal hygiene, environmental sanitation and use of safe water,
  - Preventing disease,
  - Promoting health,
  - Health problems in the village or in the community and
  - Maternal and child health care.

Eight health workers have been tackling problems mainly at communal clinics, starting to rehabilitate the clinic facilities, but one of them has been working for improving administrative capacity of a district health office.

ONE BIG FAMILY The theme of the Project
Words by D.T. Danaug (Philippine expert)
Music by T. Nobe (Japanese volunteer)

One big family
to restore the pride of this land
We felt the need to share our knowledge and
make a dream come true

One big family holding hand in hand
to lead the future with Khmer brothers
Show them how we work with them
and start to grow together
Live together, learn from each other
to show the people that we care

Heiwa to ai soshite hamony (Japanese)
Kapayapaan, pag ibig at pagkakaisa (Philippine)
Cinta, damai, dan keharmonisan (Indonesian)
Santip, kwaamrak leksaamakkee (Thai)
Cintai, kedamaian dan keharmonian (Malaysian)
Santepiap kasrolanh nung ruomknia (Cambodian)
Peace and love and harmony
will bind our countries forever
Our commitment is our priority
for the love of this country

Kroursa yeung lae moi chap dai khnia
Sang ana kut chia moi bong po'on Khmae
Bong hanh tha yeung thveuka chia moi
neung kdey chomoreourn rourm khnia
Yeung rourh teang oh khnia, sek sa pi khnia
Bong hanh yeung reaksaa kee

One big family
to restore the pride of this land
We felt the need to share our knowledge and
make a dream come true
To make that dream come true
To make our dreams come true

Rural Development & Resettlement Project in the Kingdom of Cambodia
(RD&RP)
JICA
Project Office
GPO Box : 815
462, Monivong Blvd.
Phnom Penh, Cambodia
Tel : 23-27414
23-27372
018-810356
Fax : 015-913135

渡航情報

外務省海外安全相談センター
TEL 03-3581-3749(直)

圏カンボディアへの旅行者に再度「注意喚起」

カンボディアについては、平成5年10月5日付けで「観光旅行自粛勧告」を解除して「注意喚起」に変更しましたが、その後の治安情勢の悪化に伴い、昨年5月及び8月に再度「注意喚起」を発出した経緯があります。

在カンボディア日本国大使館よりの報告によれば、現在の同国の治安状況は、去る1月15日に、バンテアイ・スレイにおいて、米国人1名及びカンボディア人ガイド1名が何者かに殺害されるという事件が発生しており、今後も外国人誘拐や殺害事件等が発生しないという保証はなく、かかる犯罪の対象として、日本人もその例外ではなく、標的にされる可能性もあり得る状況と思われます。

つきましては、プノンペン市周辺及びシェムリアップ周辺のアンコール・ワット及びアンコール・トム等の観光地域以外の地域への渡航は引き続き十分な注意が必要であるとともに、カンボディア国内の旅行に当っては、在カンボディア日本国大使館、または、外務省「海外安全相談センター」に連絡、情報入手の上慎重に行動することをお勧めします。

(1月25日付、外務省邦人保護課から運輸省旅行振興課を通じJATA宛)

カンボディアの治安情勢(旅行者に対する注意事項)

カンボディアについては、1月25日付けで渡航情報(「注意喚起」)を改めて発出しましたが、これに関連し、在カンボディア日本国大使館より外務本省に対し、次のとおりカンボディア国内旅行に当っての注意事項について報告がありましたのでお知らせします。

ついては、これらに留意の上、慎重な行動をとられるようお願いします。

1、プノンペン市周辺及びシェムリアップ市周辺地域以外の渡航は極力慎んで下さい。

2、プノンペン市内外での単独行動は慎み、複数による行動をとって下さい。

3、シェムリアップ市周辺(アンコール・ワット、アンコール・トム等)の観光は、当面、現地の状況に熟知している観光旅行社により手配される旅行以外、これを避けて下さい。

4、プノンペン市内を含め、夜間外出には、細心の注意を払い、やむをえない場合以外、これを避けて下さい。

5、地方は、シェムリアップの中心部を除き、通信手段が一切ないので、誘拐事件等に遭っても、連絡がとれず、ましてや救出には大きな困難が伴います。

6、なお、カンボディアにおける旅行は、下記の渡航可能地域にあっても航空機及び一部車両によらざるを得ませんが、何れの地域にあっても鉄道及び船舶による移動は常に危険が伴いますので、これを避けるようにして下さい。

7、上記1、~6、に十分注意を払った上で、渡航、通行が可能な地域

①プノンペン市及びその周辺

(イ) プノンペン市内

(ロ) 1号線

(ハ) 3号線プノンペンからタケオ市まで

(ニ) 4号線プノンペンからコンポンスプー市まで

(ホ) 5号線プノンペンからコンポンチュナン市まで

(ヘ) 6号線からコンポンチャム市まで

②シェムリアップ市及びその周辺

アンコール・ワット、アンコール・トム及びごく周辺の遺跡

(これら遺跡以外は観光ルートにあってもバンテアイ・スレイも含め治安上極めて危険、また、地雷も多い)

8、その他

観光会社による団体旅行、当地在住の企業・団体の関係者以外の日本人のカンボディア訪問に当っては、在カンボディア日本国大使館、当地関係者に連絡、確認の上、慎重な行動をお願いします。

(外務省・海外安全相談センター情報)

JICA